

# HP Integrityサーバ上でのMicrosoft® Windows® Server 2003, Datacenter Editionの設定



2004年3月（第2版）  
製品番号 5990-6864

© 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Microsoft®およびWindows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品の保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本書で取り扱っているコンピュータソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HPから使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211および12.212に従って、商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェア資料、および商用製品の技術データは、ベンダ標準の商用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP Integrityサーバ上でのMicrosoft® Windows® Server 2003, Datacenter Editionの設定

2004年3月（第2版）

製品番号 5990-6864

---

## 目次

はじめに.....	9
HP Integrityサーバを初めて使用するユーザが、正しくセットアップを行うための事前トレーニング ....	9
I. OSインストール前のシステム セットアップ.....	10
要件 .....	10
システムのセットアップと準備 .....	11
WindowsとACPIフラグ .....	11
インストールの準備.....	11
ファームウェア フラッシュとACPIフラグ .....	12
セルベースのシステムの手動インストールでの問題回避策 .....	12
Timed out waiting for auto-negotiation to completeメッセージ (HP Integrityサーバのみ) .....	12
VGA経由でのローカルEFI出力の有効化 .....	13
HP Integrity Superdomeのセルの位置.....	13
ハードディスク ドライブがコアI/Oシャーシ上でない場合のOSのインストール/起動 (HP Integrityサーバの場合) .	13
コンプレックスの設定：セルの割り当てとnPartition管理.....	14
Reset For Reconfigurationモードの設定 .....	14
EFIの起動後、DVD-ROM/CD-ROMドライブにDVDまたはCDを挿入するたびに、システムがEFIシェルでDVDやCD を検出できるように、map -rコマンドを発行する必要がある .....	15
EFIの起動後、システムにハードウェア (HDD、USBデバイス、DVD-ROMドライブ) を追加するたびに、システム がEFIシェルで追加されたハードウェアを検出できるように、reconnect -rコマンドを発行する必要がある .....	16
VT100ターミナルエミュレータのセットアップ.....	16
HP Integrityサーバでは、HP製グラフィックスUSBアダプタが、コアI/Oシャーシ以外でサポートされない .....	18
EFIシェル レベル出力用にVGAをローカルで有効にする方法 (HP製グラフィックスUSBコンボカード (A6869A) を使用している場合) .....	18
EFI Boot Manager.....	18
EFI Boot Maintenance Manager .....	18
EFI Boot Maintenance Manager .....	19
Smartアレイ Option ROM Configuration for Arrays (ORCA) がシステムで最初に検出されたアダプタのみを設定する	19
Smartアレイ Option ROM Configuration for Arrays (ORCA) が、論理ドライブの作成または削除の際に、F8キーを押す ように指示しない .....	20
HP Integrityサーバでの、HP製グラフィックスUSBアダプタとSmartアレイ コントローラの相互作用および制限 .....	22
BootNext変数.....	22
HP Integrityサーバ rx8620/rx7620上のI/O.....	23
EFIの概要.....	24
Extensible Firmware Interface.....	24

GUIDパーティションテーブル (GPT) ディスク .....	24
GPTでサポートされるファイル システム.....	24
ディスクの管理 .....	24
EFI System Partition .....	25
ESPの作成とサイズ.....	25
ESPの内容 .....	25
ESPの位置 .....	25
HP Service Partition.....	26
Microsoft Reserved Partition .....	26
MSRの作成.....	26
EFIシェル コマンド.....	26
<b>MPの設定 .....</b>	<b>29</b>
MPのIPアドレスおよび関連パラメータの設定.....	29
MPユーザとパスワードの変更.....	30
MPからの移動.....	30
<b>インストール前についてのトラブルシューティングに関するヒント.....</b>	<b>31</b>
ヒント1. HDDの同期速度 .....	31
ヒント2. FSの番号 .....	31
ヒント3. ハードディスク ドライブの容量サポート .....	31
ヒント4. Diskpart.efiを使用して、新しいGPTドライブをパーティション分割する .....	31
ヒント5. システム ファームウェアの確認方法.....	31
ヒント6. HP Integrityサーバでのグラフィック デバイスの初期化.....	31
<b>II. OSの再インストール .....</b>	<b>32</b>
<b>要件.....</b>	<b>32</b>
<b>重要情報.....</b>	<b>33</b>
OSインストール時のPNPの遅延 .....	33
どのドライブでイメージを受け取るのかについての混乱を防止する.....	33
<b>インストール プランニング シート.....</b>	<b>33</b>
<b>容量プランニング/パフォーマンスの基準設定.....</b>	<b>34</b>
<b>インストール方法.....</b>	<b>35</b>
ビデオ/マウス/キーボードを使用したローカル インストール .....	36
MSFリモート/高速インストールおよびHP再インストール .....	36
<b>Microsoft Windows Server 2003オペレーティング システムをインストール済みのHP Integrityサーバの 起動.....</b>	<b>37</b>
サーバのビデオと基本USB入力デバイスのセットアップ.....	37
手順 .....	37

---

HPの提供するオペレーティング システム再インストール用メディアを使用したMicrosoft Windows Server 2003のインストール.....	38
サーバのビデオと基本USB入力デバイスのセットアップ.....	38
HP再インストール用メディアからOSを再インストール.....	39
HP再インストール用メディアからOSを再インストールした後のシステムの起動.....	40
ヘッドレスMini-Setupブート.....	41
ヘッドレス コンソールを使用した再インストール.....	42
OSの再インストールについてのトラブルシューティングに関するヒント.....	45
ヒント1. 非表示のデバイスを有効にすると、デバイス マネージャの[Non-Plug and Play Drivers]の下に連続した黄色の感嘆符（黄色のアラートアイコン）が表示される場合がある.....	45
ヒント2. 再インストール用メディアを使用した場合、16GBオプションを使用しないでください。.....	45
ヒント3. Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Edition ドライバの署名.....	46
パーティション対応システムに関するヒントと問題点.....	46
FRU LEDを介したエラー メッセージ.....	46
III. Windowsの設定.....	47
要件.....	47
重要情報.....	47
NVRブート-ブート オプションの管理.....	47
Windows設定についてのヒント.....	47
SAC（Special Administration Console）プロンプトからのWindowsの再起動.....	47
SAC>プロンプトからのOSのシャットダウン方法.....	48
NOVESAブート オプションの設定.....	49
OSブート ロードでの/NOVESAフラグの追加/削除/確認方法.....	49
カーネル デバッガのセットアップ.....	50
デバッグ ケーブルのピンアウト.....	50
Windowsカーネル デバッガ ポート.....	51
デバッグ オプション.....	52
OSブート ロードでのDEBUGフラグの追加方法.....	52
OSの再インストール後にターミナル サービスを有効にする.....	53
クライアント上でリモート デスクトップ接続を起動する.....	53
Microsoftデバッガのインストールと実行方法.....	54
I/Oスロットの解釈.....	54
Windowsターミナル サーバからのコンソール アクセス.....	54
Windowsからの不揮発性RAMの表示および編集方法.....	55
説明.....	55
パラメータ リスト.....	55
Windows OSからのEFIパーティションへのアクセス.....	55
デフォルトVGAコントローラ.....	55

---

偶然オフになったターミナル サービス キーをオンにする方法.....	56
NICドライバのアップグレード.....	56
ターミナル サービスを介した管理セッションの起動.....	56
64ビット システム上のInternet Explorerで、Adobe Acrobat Readerバージョン6.0がPDF文書を表示しない.....	56
SCSIパリティ エラー.....	57
旧バージョン コントロール.....	57
HP Insightストレージエージェントとアレイ コンフィギュレーション ユーティリティの起動.....	58
16枚を超えるHBAが接続されている場合、LSI SCSIエージェントがデバイス情報を返さない.....	58
SCSIコントローラを追加すると、SNMPサービスが停止する場合があります.....	58
LSI SCSIドライバのアップグレード.....	59
<b>Windows設定の完了.....</b>	<b>59</b>
ヘッドレス構成でのWindowsへのログオン.....	59
SAC - HP Integrityシステム上のLAN用にIPアドレスを割り当てる.....	59
リモートデスクトップの起動方法.....	59
SACチャンネルの作成.....	60
SACチャンネル - コマンドチャンネルを介したWindowsへのログイン.....	60
リモートコントロールセッション：リモートデスクトップの起動.....	61
ハードウェア ステータスの確認.....	61
ハードディスク ドライブの初期化.....	64
静的IPアドレスの設定.....	64
リモート デスクトップ接続を介した静的IPアドレスの設定.....	65
クライアントのネットワークへの接続.....	66
ターミナル サーバサービスの追加.....	66
リモート デスクトップ接続ユーティリティのセットアップ (IA32コンピュータ).....	66
リモート デスクトップ接続ユーティリティのセットアップ (IA64コンピュータ).....	67
<b>Windowsの設定についてのトラブルシューティングに関するヒント.....</b>	<b>68</b>
ヒント1. OSのロードをNVRAMにインポートする.....	68
ヒント2. Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionをセーフ モードで起動する方法.....	69
方法1：NVRBOOT.EFIを実行することにより、EFI環境を使用する.....	69
方法2：EFINVR.EXEを呼び出すバッチ ファイルを実行することにより、WINPE環境を使用する.....	70
ヒント3. 空白パスワードとローカル ユーザ アカウント.....	72
ヒント4. Windows Diskpartツールの使用.....	73
ヒント5. Microsoft Windows Server 2003に付属のMicrosoft Internet Explorer 6.0を使用すると、HPアレイ コンフィギュレーションユーティリティ (ACU) がセキュリティ警告メッセージを正しく表示する。.....	73
ヒント6. ビデオ モードを有効にして、EFI環境で表示/出力を行う方法.....	75
EFI Boot Manager version 1.10 [14.61].....	75
EFI Boot Maintenance Manager ver 1.10 [14.61].....	76
EFI Boot Maintenance Manager ver 1.10 [14.61].....	76
ヒント7. OSメモリ ダンプを保存するための大規模構成システムの設定方法.....	77
応答しないシステムでダンプを作成する.....	78
システム リストア メディアとページファイル.....	78
ヒント8. SACプロンプトから再設定するための再起動 (shutdown-r) またはシャットダウン (shutdown -s) 方法.....	78
再起動のために、shutdown -rを実行するには、以下の手順に従ってください。.....	78
シャットダウンのためにshutdown -sを実行するには、以下の手順に従ってください。.....	79
ヒント9. Adobe Acrobat Reader 6.0がWindows Server 2003をサポートしない.....	80
ヒント10. HP Integrity SuperdomeおよびHP Integrity rx8620/rx7620でPCIホットプラグが失敗する.....	80

---

オンライン情報およびソフトウェアの提供元.....	81
アラートおよび通知の登録.....	81
マイクロソフトプロダクトセキュリティ警告サービスの登録.....	81
Windows Updateの登録.....	81





---

## はじめに

このガイドは、再インストール用メディアを使用して正常にインストールされたHP Integrityサーバ、またはHPがプリインストールして出荷したHP Integrityサーバ上で、Microsoft® Windows® Server 2003 Datacenter Editionオペレーティング システムを設定する際に役立ちます。また、このガイドでは、Windowsをインストールするためにシステムを最初に設定する際の手順についても説明します。さらに、再インストール用メディアを使用してWindowsオペレーティング システムを再インストールし、サーバ上でWindows OSを設定するための最終手順を実行する際にも役立ちます。これらの手順が完了すると、Windowsの通常の動作が可能になります。また、このガイドは、HPがプリロードして出荷したシステムでWindowsのインストールを完了する場合にも役立ちます。

このガイド全体にわたって、次の記号が示されています。これらの記号は、重要情報が提供されていることを読者に知らせて注意を促します。これらの指示に従わないと、システムのセットアップや準備が失敗する場合があります。



**注意：**その指示に従わないと、システムのセットアップや準備の失敗につながる恐れがある注意事項を示します。

---

**重要：**概念を説明するため、またはタスクを完了するための重要な情報を示します。

## HP Integrityサーバを初めて使用するユーザが、正しくセットアップを行うための事前トレーニング

以下のトレーニングをおすすめします。

1. HP Integrityサーバ ハードウェアに関するトレーニング。ハードウェアの正しいセットアップを習得します。
2. HP Integrityサーバ上のWindows Server 2003オペレーティング システムに関するトレーニング。Microsoft Windowsオペレーティング システムをインストールする前のシステムの正しい設定方法、およびMicrosoft Windowsソフトウェアの起動と動作に必要な再インストールメディアの使用方法を習得します。
3. 64ビット バージョンのMicrosoft Windows Server 2003, Datacenter Editionに関するトレーニング。OSの正しい設定と操作を習得します。

**注：**32ビット バージョンのMicrosoft Windows Server 2003 Datacenter Editionソフトウェアのインストールの経験をお持ちかもしれませんが、64ビット バージョンのMicrosoft Windows Server 2003, Datacenter Editionソフトウェアのインストール手順は、他の32ビット バージョンのインストール手順とは異なります。上記にあるすべてのガイドラインの指示に従ってください。

テクニカルサポートは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）から提供されています。

---

## I. OSインストール前のシステム セットアップ

この項では、ご使用のHP Integrityサーバを設定して、Microsoft® Windows® Server 2003オペレーティングシステムを実行できるようにシステムを準備するための手順について説明します。

この項は必ず読んでください。このガイドの手順は、HP Integrityサーバ上でMicrosoft Windows Server 2003を実行するすべてのお客様にとって重要です。これは、Windows Server 2003オペレーティングシステムがプリインストールされたHP Integrityサーバを注文したお客様にも当てはまります。このガイドは、以下の各項目で構成されています。

- システムのセットアップと準備（Windowsを起動する前に実行すべき手順）
  - HP Integrityサーバ上でWindows Server 2003オペレーティングシステムを正常に動作させるには、以下の準備手順を必ず実行してください。これらの作業は、オペレーティングシステムを起動する前に実行する必要があります。
- EFIの概要
- MP（管理プロセッサ）の導入
- Windowsがサポートするハードウェア
- トラブルシューティングに関するヒント

### 要件

- ハードウェアを完全にインストールおよび設定済みのHP Integrityサーバ
- 1枚または複数のネットワーク インタフェース カード（NIC）
- 1台以上のハードディスク ドライブ
- 管理コンソールPCまたは、IA32ベースの管理ワークステーション

なお、以下の情報にも注意してください。

- 詳しくは、HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）を参照してください。
- 資料および重要なソフトウェアは、HP Smart Setupメディアに収録されています。

---

## システムのセットアップと準備

### WindowsとACPIフラグ



**注意：**Windows Server 2003, Datacenter Editionを起動する前に、このガイドのプロセスを実行して、HP ACPI Configuration Windowsフラグを有効にしておく必要があります。

---

Windowsオペレーティング システムがプリインストールされたサーバの場合、ACPI Configuration Windowsフラグはすでに有効になっています。Windowsを起動する前に、パーティションがWindowsに設定されたACPIフラグを備えていることを確認してください。

ACPIフラグを確認するには、EFIプロンプトで、次のコマンドを実行してください。

```
Shell> acpiconfig
Acpiconfig settings: windows
```

ACPIフラグがWindowsに設定されていない場合は、EFIプロンプトで、次のコマンドを実行してください。

```
Shell> default
Shell> acpiconfig windows
windows settings have been enabled.
A reset is required for the settings to take effect.
Shell> reset
```

以上で、ご使用のシステムのファームウェアは、Windowsを実行するように設定されました。ACPIフラグがWindowsに設定されていないと、Windowsは、ブルー スクリーンを表示し、正常に起動しません。

ACPIフラグを設定すると、ファームウェアをフラッシュするか、またはnParコマンドやPar CommandsウィザードなどのnPartition管理ツールを使用してシステムを再度パーティショニングするまで、このフラグは設定されたままになります。

### インストールの準備

すべてのコントローラからすべての大容量記憶装置のケーブルを抜き取ります。ただし、ブート コントローラとして使用するコントローラは**除いてください**。後で接続しやすいように、各装置が接続されていた位置をメモしておきます。これにより、正しい装置を正しい位置に簡単に接続できます。

---

## ファームウェア フラッシュとACPIフラグ

ファームウェア フラッシュを実行する場合、フラッシュの完了後、上記の「WindowsとACPIフラグ」を参照して、ACPIフラグがWindows用に設定されていることを確認してください。ACPIフラグは一度設定するとそのまま維持されますが、ファームウェアの機能を変更すると、このフラグに影響があることがあります。ACPIフラグを確認するには、Shell> `acpiconfig`と入力し、その結果が `Acpiconfig settings: Windows`と表示されることを確認してください。

## セル ベースのシステムの手動インストールでの問題回避策

セル ベースのシステムで手動でインストールを行う場合は、正常に起動するように、次の回避策を実行してください。最初のOS再起動 (TXTsetupモード) 後、GUIインストールが開始されるまでに、EFI Boot Managerのエントリを変更してください。

エントリを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. EFI Boot Managerメニューが表示される前に任意のキーを押して、ブートシーケンスに割り込みます。
2. EFIシェルに移動します。
3. `MSutil`ディレクトリで`NVRBOOT.EFI`ユーティリティを使用して、エントリを変更します。 `novesa` スイッチを追加して、`OsLoadOptions = /redirect /novesa`とします。
4. ユーティリティを終了して、EFIシェルを終了し、OSのブートエントリを選択します。

## Timed out waiting for auto-negotiation to completeメッセージ (HP Integrityサーバのみ)

ファームウェアを起動したとき、次のメッセージが表示される場合があります。

```
Timed out waiting for auto-negotiation to complete
```

このメッセージが表示される場合、EFIで起動の遅延が発生しているため、[Boot Manager]メニューが表示されるまで長くかかります。これらのメッセージは、コアI/Oの100BT NICが原因となって生成されません。この遅延とメッセージは、LANケーブルをコアI/OのLANポートに接続するだけで、発生しなくなります。

---

## VGA経由でのローカルEFI出力の有効化

HP Graphics USB Comboカード (A6869A) を使用する場合、以下の手順に従って、EFIビデオがVGAを介してローカル表示されるように設定してください。

1. EFI Boot Managerから、**[Boot option maintenance menu]**を選択し、**Enter**キーを押します。
2. **[Select Active Console Output Devices]**メニューを選択し、**Enter**キーを押します。
3. **[PCI 5]0 device]**という文字列を含む行を強調表示します。このデバイスが、システムのVGAカードです。行の先頭にアスタリスクがない場合は、スペース キーを押します。スペース キーを押すと、このデバイスの有効/無効が切り替わり、有効な場合は、アスタリスクが表示されます。
4. **[Save Settings to NVRAM]**を選択し、**Enter**キーを押します。
5. 終了します。

この時点で、EFIシェルでresetコマンドをタイプして、パーティションをリセットする必要があります。

**注：**この手順は、VGAカードをインストールしていないシステムでは不要です。

## HP Integrity Superdomeのセルの位置

以下に示す番号付け方式に注意して、セルの物理位置を確認してください。

キャビネット0：セル0～7

キャビネット1：セル8～15

## ハードディスク ドライブがコアI/Oシャーシ上にある場合のOSのインストール/起動 (HP Integrityサーバの場合)

ブート コントローラを、コアI/Oシャーシにインストールすることを強くおすすめします。ブート コントローラがコアI/Oシャーシ内がない場合、そのセル上でsearchコマンドを実行し、ブート コントローラを検索する必要があります。また、この検索は、再起動のたびに実行しなければなりません。

たとえば、パーティションのセル8にあるSmartアレイ コントローラに接続されたハードディスク ドライブをロード/検出したい場合、次のコマンドを実行してください

```
Shell> search 8

dec2114x found MAC address xx:xx:xx:xx:xx:xx Name = sni7
Scsi (Pun5,Lun0) PIONEER DVD-ROM DVD-305 1.00 ( 20 MBytes/sec)
(Press <F8> to run the Option ROM Configuration for Arrays Utility
Press <ESC> to skip configuration and continue

RAID 4/5/ADG performance may be higher after completion.
```

---

**注：**この操作により、該当するパーティションのセル8にあるSmartアレイ コントローラに接続されたこのハードディスク ドライブにOSをインストールできます。OSのインストールが完了すると、ディスクがコアI/Oシャーシ上にない場合でも、そのディスクを対象にBoot Managerのエントリが自動的に追加され、カードが自動的に接続されます。



**警告：**OSを再起動するたびに、SEARCH 8コマンドを実行して、コントローラのドライバをロードする必要があります。

---

## コンプレックスの設定：セルの割り当てとnPartition管理

nParコマンド (ParCLI) およびPar Commandウィザード (Par Wrapper) という、Windows用の2つのnPartition管理ツールを使用できます。システムのパーティショニングおよびパーティション管理ツールのインストールについては、ご使用のプラットフォーム用の『Microsoft® Windows®を使用するHP Integrityサーバ用のnPartition管理』を参照してください。



**注：**パーティションの変更を有効にするには、パーティションをReset for Reconfigurationモードに設定する必要があります。このため、パーティションをReset for Reconfigurationモードに設定してから、パーティションの管理作業を開始することをおすすめします。

---

## Reset For Reconfigurationモードの設定

Reset for Reconfigurationモードに設定するには、各nPartitionのオペレーティング システムをシャットダウンします。次に、Telnetを使用して、コンプレックスのMPにアクセスします。コマンド メニューに入って、各ターゲットパーティションでRRコマンドを実行します。

**注：**パーティション管理が終了したら、MPコマンド メニューのBOコマンドを使用して、各パーティションを起動します。

---

## EFIの起動後、DVD-ROM/CD-ROMドライブにDVDまたはCDを挿入するたびに、システムがEFIシェルでDVDやCDを検出できるように、map -rコマンドを発行する必要がある

map -rコマンドは、以下のように発行してください。

```
Shell> map -r
```

```
Device mapping table
```

```
fs0   : Acpi(000222F0,2)/Pci(1|0)/Scsi(Pun2,Lun0)/CDROM(Entry0)
fs1   :
Acpi(000222F0,1A)/Pci(1|0)/Pci(4|0)/Scsi(Pun0,Lun0)/HD(Part1,SigCF5F2D
DC-B885-11D7-B831-000000000000)
fs2   :
Acpi(000222F0,1A)/Pci(1|0)/Pci(4|0)/Scsi(Pun0,Lun0)/HD(Part2,SigCF5F32
28-B885-11D7-B831-000000000000)
blk0  : Acpi(000222F0,2)/Pci(1|0)/Scsi(Pun2,Lun0)
blk1  : Acpi(000222F0,2)/Pci(1|0)/Scsi(Pun2,Lun0)/CDROM(Entry0)
blk2  : Acpi(000222F0,1A)/Pci(1|0)/Pci(4|0)/Scsi(Pun0,Lun0)
blk3  :
Acpi(000222F0,1A)/Pci(1|0)/Pci(4|0)/Scsi(Pun0,Lun0)/HD(Part1,SigCF5F2
```

以上で、FS0を介してDVD/CDメディアにアクセスできます。

**注：**map -rを実行しても、DVDまたはCDが認識されない場合は、reconnectコマンドを実行します。reconnectコマンドの実行手順については、以下を参照してください。

---

**EFIの起動後、システムにハードウェア（HDD、USBデバイス、DVD-ROMドライブ）を追加するたびに、システムがEFIシェルで追加されたハードウェアを検出できるように、reconnect -rコマンドを発行する必要がある**

例：

```
Shell> help reconnect
RECONNECT devicehandle [driverhandle [childhandle]] | [-r]
```

```
devicehandle : Device handle (hex)
driverhandle  : Driver handle (hex)
childhandle   : Child handle of device (hex)
-r            : Reconnect drivers from all devices
```

Note:

1. This command disconnects the drivers from the controller, just like disconnect, but it then immediately reconnects them.
2. This command is a great way to test if drivers are following the EFI 1.1 Driver Model.

Examples:

\*To reconnect all drivers from all devices:

```
Shell>reconnect -r
```

\*To reconnect all drivers from device 28:

```
fs0:¥>reconnect 28
```

\*To reconnect driver 17 from device 28:

```
fs0:¥>reconnect 28 17
```

Press ENTER to continue, 'q' to exit:

**注：**

1. このコマンドは、disconnectコマンドと同様に、ドライバをコントローラから切断しますが、すぐに再接続します。
2. このコマンドは、ドライバがEFIドライバ モデルに準拠しているかどうかを確認するためのテストを行います。
3. デバイス ハンドルを検出するには、EFIコマンドのdevicesを使用してください。

例：

- \* すべてのデバイスからすべてのドライバを再接続するには、次のコマンドを実行してください。

```
Shell> reconnect -r
```

**注：**他のオプション パラメータについては、dhコマンドを使用して各ハンドル番号を確認できます。

## VT100ターミナル エミュレータのセットアップ

1. ヌル モデム ケーブルの端をサーバのCOMポートに接続します。Integrity Superdomeサーバの場合は、コアCOMポートがないため、シリアルカードを追加する必要があります。
2. ヌル モデム ケーブルのもう一方の端をターミナル クライアント システムのCOMポートのいずれか（例：COM1）に接続します。
  - a. ターミナルクライアントには、ノートPC、デスクトップPC、サーバなどを使用できます。
  - b. ターミナルクライアントには、OSおよびHyperTerminalソフトウェアがインストールされていなければなりません。
3. ターミナルクライアントシステムで、COMポート（例：COM1）が使用できることを確認します。
4. **HyperTerminal**アプリケーションを起動します。



5. ヌルモデムケーブルが接続されているCOMポートを選択します。
6. ポートを次のように設定します。

ビット/秒：9600  
 データビット：8  
 パリティ：なし  
 ストップビット：1  
 フロー制御：Xon/Xoff

**注：**Xon/Xoff方式は、ソフトウェアによってハンドシェーキングを行う、データフロー制御の標準ソフトウェア方式です。EFIは、ハードウェアフローではなく、Xon/Xoffを使用してターミナルデバイスを経た通信を行います。EFIを使用しない従来のシステムでは、シリアルケーブルで接続されたデバイス間のデータフロー制御にハードウェアフローを使用します。

Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionの64ビットバージョンでは、現時点では、テキスト制御フローのXon/Xoffは機能しません。最新のアップデートについては、Microsoft社のWebサイト<http://www.microsoft.com/>を参照してください。

7. 以上で、ターミナルクライアントは、VT100端末をエミュレートできます。

**注：**標準のUS 101キーボードのキーや国際キーボードに必要な文字の中には、VT100端末定義およびASCII文字セットではサポートされないものがあります。VT100エミュレータは、出力の色分け表示はサポートしません。

#### VT100端末定義およびASCII文字セットにはないキーの使用規則

キーボード	シーケンス	キーボード	シーケンス	キーボード	シーケンス
Homeキー	<ESC>h	F1	<ESC>1	F7	<ESC>7
Endキー	<ESC>k	F2	<ESC>2	F8	<ESC>8
Insertキー	<ESC>+	F3	<ESC>3	F9	<ESC>9
Deleteキー	<ESC>-	F4	<ESC>4	F10	<ESC>0
Page Upキー	<ESC>?	F5	<ESC>5	F11	<ESC>!
Page Downキー	<ESC>/	F6	<ESC>6	F12	<ESC>@
改行	^J	カーソルアップ	<ESC>[A	点滅をオンにする	<ESC>[5m
ホームカーソル	<ESC>[H	カーソルダウン	<ESC>[B	ボールドをオンにする	<ESC>[1M
バックスペース	^H	カーソル前進	<ESC>[C	タブ	^I
Escキー	<ESC> -<ESC>	カーソル後退	<ESC>[D	バックタブ	<ESC>[Z

**注：**<ESC>で始まるキーシーケンスでは、間隔を空けずにすばやくキーを押してください。そうしないと、コンピュータが認識しません。

---

## HP Integrityサーバでは、HP製グラフィックスUSBアダプタが、コアI/Oシャーシ以外でサポートされない

**問題：**HP製グラフィックスUSBアダプタは、ルートセルに接続されたI/Oシャーシでのみサポートされません。このカードをルートセルに接続されていないI/Oシャーシに取り付けると、カードが予期せぬ動作をすることがあります。

## EFIシェル レベル出力用にVGAをローカルで有効にする方法 (HP製グラフィックスUSBコンポカード (A6869A) を使用している場合)

### EFI Boot Manager

ブート オプションを選択します。

```
Windows Server 2003, Datacenter
```

```
EFI Shell [Built-in]
```

```
Boot option maintenance menu
```

[**Boot option maintenance menu**]を選択します。

### EFI Boot Maintenance Manager

メインメニューから、操作を選択します。

```
Boot from a File
```

```
Add a Boot Option
```

```
Delete Boot Option(s)
```

```
Change Boot Order
```

```
Manage BootNext setting
```

```
Set Auto Boot TimeOut
```

```
Select Active Console Output Devices
```

```
Select Active Console Input Devices
```

```
Select Active Standard Error Devices
```

```
Cold Reset
```

```
Exit
```

[**Select Active Console Output Devices**]を選択します。

---

## EFI Boot Maintenance Manager

**注：**選択と選択解除には、スペース キーを使用します。スペース キーを押すたびに、強調表示されている行の有効/無効が切り替わります。アスタリスクは、行が有効になっていることを示します。

```
Acpi (PNP501,0) uart (9600 N81) /VenMsg (PcAnsi)
Acpi (PNP501,0) uart (9600 N81) /VenMsg (Vt100)
Acpi (PNP501,0) uart (9600 N81) /VenMsg (Vt100+)
Acpi (PNP501,0) uart (9600 N81) /VenMsg (VtUtf8)
Acpi (HWP0002,700) /pci (1|1) /uart (9600 N81) /VenMsg (PcAnsi)
Acpi (HWP0002,700) /pci (1|1) /uart (9600 N81) /VenMsg (Vt100)
Acpi (HWP0002,700) /pci (1|1) /uart (9600 N81) /VenMsg (Vt100+)
Acpi (HWP0002,700) /pci (1|1) /uart (9600 N81) /VenMsg (VtUtf8)
* Acpi (HWP0002,700) /pci (2|0)
```

Acpi(HWP0002,700)/pci(2|0)にチェックがついている場合はVGAをローカルで有効な状態です。  
Acpi(HWP0002,700)/pci(2|0)にチェックがついていない場合はVGAをローカルで無効な状態です。

設定をNVRAMに保存して、終了します。

**注：**既存のパーティションにセルを追加する場合は、そのパーティション内のVGAコントローラの数が1つだけであることを確認してください。VGAコントローラは、コアI/Oシャーシ（ルートセルに接続されているI/Oシャーシ）に配置しなければなりません。

## Smartアレイ Option ROM Configuration for Arrays (ORCA) がシステムで最初に検出されたアダプタのみを設定する

**問題：**ORCAオフライン コンフィギュレーション ユーティリティでは、PCIの初期化に基づいて最初に検出されたアダプタだけを設定します。また、ORCAユーティリティは、他のアダプタが接続されている場合でもそれを登録しません。

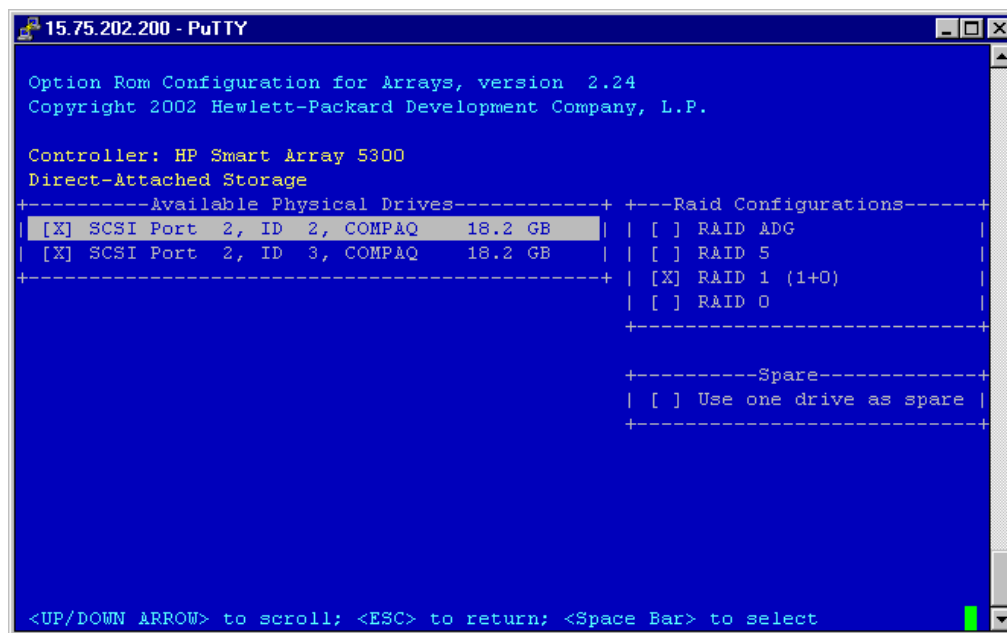
**回避策：**システムの出荷時に、論理ブート ドライブが設定済みでない場合は、ORCAを使用して論理ブート ドライブのみを設定します。その後オンラインのアレイ コンフィギュレーション ユーティリティを使用して、システム内の以降のSmartアレイ コントローラに接続されている他のアレイを設定します。

## SmartアレイOption ROM Configuration for Arrays（ORCA）が、論理ドライブの作成または削除の際に、F8キーを押すように指示しない

**問題：**ORCAオフラインユーティリティを使用して、Smartアレイ6400コントローラ上のアレイを作成または削除する際、このアプリケーションは、**F8**キーを押して論理ドライブを作成または削除するよう指示するプロンプトを表示しません。**F8**キーは機能していますが、画面にプロンプトが表示されません（次のスクリーンキャプチャを参照）。

**回避策：**ターミナルエミュレータのデフォルトの表示行数を24行ではなく、25行に設定します。

**注：**ORCAで**Esc**キーを使用すると、4秒の遅延が発生します。**Shift+Tab**キーの使用をおすすめします。



```
15.75.202.200 - PuTTY
Option Rom Configuration for Arrays, version 2.24
Copyright 2002 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Controller: HP Smart Array 5300
Direct-Attached Storage
+-----Available Physical Drives-----+ +---Raid Configurations-----+
| [X] SCSI Port 2, ID 2, COMPAQ 18.2 GB | | [ ] RAID ADG |
| [X] SCSI Port 2, ID 3, COMPAQ 18.2 GB | | [ ] RAID 5 |
+-----+ +---[X] RAID 1 (1+0)---+
| | [ ] RAID 0 |
+-----+ +-----Spare-----+
| [ ] Use one drive as spare |
+-----+

<UP/DOWN ARROW> to scroll; <ESC> to return; <Space Bar> to select
```

**回避策：**アレイを設定する際、物理ドライブとRAID構成を指定した後に**F8**キーを押してアレイを完全に設定してください。

同様に、アレイを削除する場合は、論理ドライブを選択した後に**F8**キーを押して、削除したい論理ドライブの削除手順を続行してください（次のスクリーンキャプチャを参照）。

```
15.75.202.200 - PuTTY
Option Rom Configuration for Arrays, version 2.24
Copyright 2002 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Controller: HP Smart Array 5300
Direct-Attached Storage

-----Available Logical Drives-----
| Logical Drive # 1, RAID 1, 17.4 GB, OK |
-----

<UP/DOWN ARROW> to scroll; <ESC> to return
```

---

## HP Integrityサーバでの、HP製グラフィックスUSBアダプタとSmartアレイ コントローラの相互作用および制限

**問題：** HP製グラフィックスUSBアダプタを、Smartアレイ コントローラよりも優先順位の高いPCIスロットに取り付けている場合、システム起動時および起動後にsearchまたはreconnectコマンドを発行しても、SmartアレイがEFIドライバをロードできません。

**注：** PCIスロットの優先順位は、ファームウェアの初期化時に決まります（表を参照）。

**回避策：** HP製グラフィックスUSBアダプタをPCIスロット6に取り付けます。

### HP Integrity SuperdomeでのファームウェアによるPCIスロットの初期化の順序

PCI I/Oスロット	ファームウェアによる初期化の順序
PCIスロット0	0
PCIスロット1	1
PCIスロット2	2
PCIスロット3	3
PCIスロット4	4
PCIスロット5	5
PCIスロット6	11
PCIスロット7	10
PCIスロット8	9
PCIスロット9	8
PCIスロット10	7
PCIスロット11	6

### BootNext変数

BootNext変数は、Windowsのインストール プロセスで、特定のセットアップ プログラムを起動するために使用されます。この変数を使用したくない場合は、この自動ブート プロセスに割り込む必要があります。

EFI BootNext自動起動変数をクリアするには、Boot Managerが表示される前に**Enter**キーを押してください。この機能は、インストールの実行中にWindows OSローダを編集する場合に、役立つように追加されました。任意のキーを押すと、次のメッセージが表示されます。

```
Loading BootNext option...
```

```
Press any key to cancel EFI BootNext autoboot.
```

```
A key was pressed before loading the BootNext variable  
Do you want to stop the BootNext process [Y-Yes N-No]?
```

---

## HP Integrityサーバ rx8620/rx7620上のI/O

HP Integrityサーバrx8620/rx7620は、HPのミッドレンジIA64サーバです。このサーバは、EFIシェルでI/Oを実行するための特別なメカニズムを備えています。このメカニズムは、パートナーによるOSのインストールに影響を及ぼします。また、パートナーがI/Oデバイスを確認する位置とタイミングにも関わってきます。HP Integrityサーバrx8620/rx7620は、I/Oに関して、次の一連の規則に従います。

1. デフォルトでは、起動時に、各セルのコアI/Oデバイスのみが接続されます。スロットの検出や接続は行われません。そのため、これらのスロットに挿入されているI/OデバイスはEFIコマンドを使用してもどれも認識されません。ユーザは、EFIシェルで、**search**コマンドを使用して特定のスロットまたはマシン上のすべてのスロットを検出できます。**search**コマンドの実行後、検出されたスロットのI/Oデバイスは認識されます。
2. 使用するOSのインストーラがブート変数のハードウェア パスが不完全であることを指定するタイプの場合、**Boot Manager**は、起動時に次の操作を行います。
  - a. **Boot Manager**が検出したブート変数ごとに、その変数で指定されているデバイスを接続します。デバイスのハードウェア パスが不完全で、パーティションがGUIDパーティションの場合、次の手順に進みます。
  - b. 内部データベースを調べて、ブート変数によって指定されているGUIDを探します。データベースでエントリが見つかった場合は、データベース内の、その変数に関連付けられたハードウェア パスへの接続が行われ、プロセスは完了します。ハードウェア パスへの接続ができない場合は、データベース エントリが不正であるため、そのエントリは削除されます。データベースにエントリがない場合やエントリが不正な場合は、次の手順に移動します。
  - c. 現在接続されているデバイスを検索して、ブート変数で指定されているGUIDを探します。見つかった場合は、そのGUIDおよび関連付けられたハードウェア パスを使用して内部データベースを更新し、プロセスを完了します。見つからない場合は、次の手順に移ります。
  - d. 現在接続されているどのデバイスでもGUIDが見つからない場合は、すべてのデバイスを接続して、再度、GUIDを探します。システム上のすべてのデバイスが接続され、GUIDがもう一度検索されます。GUIDが見つかった場合、そのGUIDおよび関連付けられたハードウェア パスを使用して内部データベースが更新されます。この手順が行われた後のブート プロセスでは、そのハードウェア パスにのみ接続が行われるため、起動が高速になります。GUIDが見つからない場合、マシン上にメディアが存在しないことになり、そのマシンは起動しません。
3. マシンがブート変数を接続すると、メディア上のそのGUIDを含むすべてのパーティションが接続されます。これにより、同じメディア上に複数のパーティションがある場合のインストールの問題が解決されます。
4. この情報はすべて、マシン上のNVMに格納されます。NVMをクリアすると、すべての設定（ブート変数、GUIDデータベース、ACPI設定）が消失します。

---

## EFIの概要

### Extensible Firmware Interface

Extensible Firmware Interface (EFI) は、EFIドライバ、EFIアプリケーション、EFI OSローダなど、抽象レベルの共通ブート環境を定義します。

EFIプラットフォーム インタフェースは、プラットフォームとそのプラットフォーム上で起動されるOSの間のインタフェースを提供するように設計されています。EFIは、診断プログラムやユーティリティプログラムとプラットフォームとの間のインタフェースも提供しますが、OSによる完全な診断環境の実装を目的とはしません。EFIは、EFIシステム上にOSによく似た小規模な診断環境を簡単に構築できるようにすることを目的としています。このガイドでは、この診断環境については説明しません。EFIは、デフォルトでは、入力用のポインティング デバイスやビットマップ出力をサポートしません。Microsoft社は、64ビットWindowsオペレーティング システム起動用の唯一のファームウェア インタフェースとしてEFIをサポートしています。64ビットWindowsは、BIOSやSAL (System Abstraction Layer) だけでは起動しないため、すべてのHP Integrityサーバベースのシステムでは、EFIが必要です。

### GUIDパーティション テーブル (GPT) ディスク

Microsoft Windows Server 2003には、GPTディスクが必要です。マスタ ブート レコード (MBR) ディスク パーティショニング形式が最大2TBのボリュームおよびディスク当たり最大4つのプライマリ パーティション (または3つのプライマリ パーティションと1つの拡張パーティション、および無制限の論理ドライブ) をサポートするのに対して、GPTディスクは、最大18EB (エクサバイト) のボリュームとディスク当たり最大128のパーティションをサポートします。MBRのパーティション ディスクでは、プラットフォームの動作にとって重要なデータはパーティション分割されていないセクタや隠しセクタに格納されますが、GPTではパーティションに格納されます。さらに、GPTパーティション ディスクでは、パーティション テーブルが冗長構成 (プライマリ テーブルとバックアップ テーブル) されており、パーティション データ構造の完全性が強化されています。

### GPTでサポートされるファイル システム

GPTでサポートされるファイル システムは、NTFS、FAT、およびFAT32です。EFIはFATおよびFAT32をサポートします。

### ディスクの管理

以下の点を除いて、GPTディスクでもMBRディスクと同じタスクを実行できます。

- Microsoft Windows Server 2003 OS (64ビット) のみが、GPTディスクをサポートします。GPTディスクをMicrosoft Windows Server 2003の32ビット バージョンを実行するコンピュータに移行することはできません。Microsoft Windows Server 2003の32ビット バージョンを実行するコンピュータのディスクの管理では、GPTディスクは、ディスク全体にまたがる1つのパーティションを備えたベシック MBRディスクとして表示されますが、パーティション上のデータにはアクセスできません。
- OSローダと起動パーティションは、GPTディスク上に常駐しなければなりません。他のハードディスク ドライブは、MBRでもGPTでもかまいません。



- 
- リムーバブルメディア、USB (Universal Serial Bus) やIEEE 1394 (別名FireWire) インタフェースを使用する取り外し可能ディスク上では、GPTパーティショニング形式は使用できません。
  - クラスタ サービスが使用する共有SCSIまたはファイバ チャンネル バスに接続されているクラスタディスク上では、GPTパーティショニング形式は使用できません。

ただし、次のタスクは実行できます。

- 1つのダイナミック ディスク グループにMBRディスクとGPTディスクの両方を含むことができます。
- ディスク グループに含まれない、ベーシックGPTディスクとベーシックMBRディスクを混在させることもできます。
- ディスクにデータが入っていないければ、MBRディスクからGPTディスク、GPTディスクからMBRディスクへの変換が可能です。

## EFI System Partition

EFI System Partition (ESP) は、システムの起動に必要なドライバなどのファイルを格納します。

### ESPの作成とサイズ

ESPは、再インストール用メディアを使用して作成します。ESPの容量は、100MBになります。

### ESPの内容

ESPには、OSの起動に必要なファイルや、OSの起動前に実行されるプラットフォーム ツール、OSの起動前にアクセスする必要があるファイル (起動前のシステム メンテナンスを実行する際に必要なファイルなど) だけを格納するようにしてください。OSの実行中に使用される他の付加価値ファイルや診断ユーティリティは、ESPには格納しないでください。ESPの領域は容量の限られたシステム リソースであり、ESPがOSの起動に必要なファイルの格納を主目的にしていることに注意してください。オンライン診断ツールやその他のEFIユーティリティは、HP Service Partition (HP Service Partitionを参照) に格納することをおすすめします。

**注：**Microsoft社は、ESPにローダおよびOSの起動に必要なその他のファイルを配置しています。

### ESPの位置

ESPは、ディスク上の最初に作成されるパーティションです。アーキテクチャの面での要件はありませんが、ESPを最初に配置すると有利な理由は数多くあります。その最も大きな理由は、拡張しようとする2つのデータ パーティションの間にESPが論理的に存在すると、ボリュームを拡張できなくなることです。

#### ESPへのアクセス

ESPには、mountvolコマンドを使用してWindows OSからアクセスできます。

Windowsで、[スタート]メニューから、[ファイル名を指定して実行]をクリックし、**command**とタイプし、コマンドプロンプトを表示します。

コマンドプロンプトで、次のようにタイプします。

```
mountvol x: /s
```

---

ここで、**x**は任意の未使用のドライブ文字です。

これにより、**x:**ドライブが、ESPとしてマップされます。マップが完了すると、WindowsのエクスプローラからESPにアクセスして、WindowsとESPの間でファイルを移動できます。ESPに格納されるファイルには、EFIシェルからもアクセスできます。

**注：**ESPは、OSの正常な起動に必要な、容量の限られたパーティションです。このパーティションに、必須ファイル以外のファイルを格納しないでください。

## HP Service Partition

HP Service Partition (HPSP) は、HP Smart Setupメディアに収録されているEBSUツールを使用して作成されます。このパーティションは、Offline Diagnostics and Utilities CDに収録されている診断ツールを格納するために作成されます。このパーティションにファイルを格納するには、Offline Diagnostics and Utilities CDを挿入して、プロンプトに従います。

## Microsoft Reserved Partition

Microsoft Reserved Partition (MSR) は、OSソフトウェアが後で使用できるように各ディスク ドライブの領域を予約します。GPTディスクでは、隠しセクタは許可されません。以前に隠しセクタを使用していたソフトウェア コンポーネントは、コンポーネント固有のパーティション用にMSRの一部を割り当てるようになります。たとえば、ベーシック ディスクをダイナミック ディスクに変換すると、そのディスクのMSRの容量が減少し、新しく作成されるパーティションにダイナミック ディスクのデータベースが格納されます。各GPTディスクは、MSRを含む必要があります。MSRは、必ず、他のプライマリデータ パーティションの前に作成してください。

## MSRの作成

MSRは、再インストール用メディアとWindows OSによって自動的に作成されます。

**注：**MSRが他のパーティションに分割されると、そのサイズは小さくなります。MSRの容量は変化します。MSRのサイズは、16GB未満のドライブでは32MB、16GB以上のドライブでは128MBです。

## EFIシェル コマンド

ほとんどのシェル コマンドは、EFIシェル プロンプトから実行できます。ただし、バッチ スクリプト ファイルからのみ使用できるコマンドもあります。表のバッチのみ欄には、スクリプト ファイル内からのみ使用できるコマンドかどうかを示します。以下では、各コマンドについて詳しく説明します。これらのコマンドの中には、一部のモデルで使用できないものもあります。

## EFIシェル コマンド

コマンド	バッチのみ	説明
alias	いいえ	EFIシェルでエイリアスを表示、作成、または削除します。
attrib	いいえ	ファイルまたはディレクトリの属性を表示または変更します。
bcfg	いいえ	ドライバ/ブート設定を表示または変更します。
break	いいえ	デバッグのブレーク ポイントを実行します。
cd	いいえ	カレント ディレクトリを表示または変更します。
cls	いいえ	オプションの背景色を使用して標準出力をクリアします。
comp	いいえ	2つのファイルの内容を比較します。
Connect	いいえ	EFIドライバをデバイスにバインドし、ドライバを起動します。
Cp	いいえ	1つ以上のファイル/ディレクトリを他の場所にコピーします。
Date	いいえ	現在の日付を表示するかまたはシステムの日付を設定します。
Dblk	いいえ	ブロック デバイスからのブロックの内容を表示します。
Devices	いいえ	EFIドライバにより管理されているデバイスのリストを表示します。
Devtree	いいえ	EFIドライバ モデルに属するデバイスをツリー表示します。
Dh	いいえ	EFI環境のハンドルを表示します。
Disconnect	いいえ	デバイスから1つ以上のドライバを切断します。
Dmem	いいえ	メモリの内容を表示します。
Dmpstore	いいえ	すべてのNVRAM変数を表示します。
Drivers	いいえ	EFIドライバ モデルに従うドライバのリストを表示します。
Drvcfg	いいえ	ドライバ コンフィギュレーション プロトコルを起動します。
Drvdiag	いいえ	ドライバ診断プロトコルを起動します。
Echo	いいえ	メッセージを表示するかまたはコマンドのエコー機能のオン/オフを切り替えます。
Edit	いいえ	ASCIIファイルまたはUNICODEファイルを、全画面表示で編集します。
EfiCompress	いいえ	ファイルを圧縮します。
EfiDecompress	いいえ	圧縮されたファイルを解凍します。

続く

## EFIシェル コマンド (続き)

コマンド	バッチのみ	説明
Err	いいえ	エラー レベルを表示または変更します。
Exit	いいえ	EFIシェルを終了します。
for/endifor	はい	一連の項目中の各項目に対してコマンドを実行します。
getmtc	いいえ	単一カウンタの現在の値を表示します。
goto	はい	バッチ ファイルの実行位置を移動します。
guid	いいえ	EFI環境のすべてのGUIDを表示します。
help	いいえ	コマンド リストまたはあるコマンドの説明を表示します。
hexedit	いいえ	全画面を使用して、16進モードで編集します。
if/endif	はい	指定された条件でコマンドを実行します。
load	いいえ	EFIドライバをロードします。
LoadBmp	いいえ	画面にビットマップ ファイルを表示します。
LoadPciRom	いいえ	ファイルからPCIオプションROMイメージをロードします。
ls	いいえ	ディレクトリ内のファイルとサブディレクトリのリストを表示します。
map	いいえ	マッピングを表示または定義します。
Memmap	いいえ	メモリ マップを表示します。
mkdir	いいえ	1つ以上のディレクトリを作成します。
mm	いいえ	MEM/IO/PCIを表示または変更します。
mode	いいえ	コンソール出力デバイスのモードを表示または変更します。
mount	いいえ	ブロック デバイス上のファイル システムをマウントします。
Mv	いいえ	1つ以上のファイル/ディレクトリを目的の場所に移動します。
OpenInfo	いいえ	ハンドル上のプロトコルおよびエージェントを表示します。
Pause	いいえ	メッセージを出力して、キーボード入力を待ちます。
Pci	いいえ	PCIデバイスまたはPCI機能の設定スペースを表示します。
Reconnect	いいえ	あるデバイスから1つ以上のドライバを再接続します。

続く

## EFIシェル コマンド (続き)

コマンド	バッチのみ	説明
Reset	いいえ	システムをリセットします。
Rm	いいえ	1つ以上のファイルまたはディレクトリを削除します。
Set	いいえ	EFI環境変数を、表示、作成、変更、または削除します。
Setsize	いいえ	ファイルのサイズを設定します。
Stall	いいえ	プロセッサを、数マイクロ秒間、停止します。
Time	いいえ	現在の時刻を表示するか、またはシステムの時刻を設定します。
Touch	いいえ	ファイルの日付と時刻を現在の日時に設定します。
Type	いいえ	ファイルの内容を表示します。
Unload	いいえ	プロトコルイメージをアンロードします。
Vver	いいえ	バージョン情報を表示します。
Vol	いいえ	ファイル システムのボリューム情報を表示します。

## MPの設定

『HP Integrity Server Service Guide』には、MPインタフェースの操作方法が詳しく紹介されています。

### MPのIPアドレスおよび関連パラメータの設定

1. システムの背面で、ヌル モデム ケーブルをローカル コンソールのシリアル ポート (MPポート) に接続します。ヌル モデム ケーブルのもう一方の端を、ターミナル クライアント システムのCOMポートのいずれか (例: COM1) に接続します。
2. VT100ターミナルエミュレータを、次のポート設定で実行します。  
ビット/秒: 9600  
データ ビット: 8  
パリティ: なし  
ストップ ビット: 1  
フロー制御: Xon/Xoff
3. エミュレータを起動して、**Enter**キーを押します。MPのログイン プロンプトが表示されます。
4. MP LoginおよびMP Passwordに、それぞれ**Admin**と入力します。
5. MP>プロンプトで**cm**とタイプします。
6. MP:CM>プロンプトで、**ls**とタイプして、現在のIPアドレス設定を確認します。
7. MP:CM>プロンプトで、**lc**とタイプして、IPアドレスを設定します。

- 
- MP:CM>プロンプトで、**sa**とタイプして、アクセス パラメータを変更します。次に、パラメータとデフォルト設定を示します。

T - Telnetアクセス : 有効  
M - モデム アクセス : 無効  
W - Webコンソール : 有効  
N - ネットワーク診断 : 有効  
I - IPMI Lanアクセス : 有効

**注** : IPアドレスを設定した後は、Telnetまたは同様のアプリケーションを使用して、MPにリモートからアクセスできます。

## MPユーザとパスワードの変更

MP:CM>プロンプトから**so**コマンドを入力することで、ユーザおよびパスワードの変更、追加、または削除ができます。

## MPからの移動

- MPコマンドメニューから移動するには、MP:CM>プロンプトで**ma**とタイプします。
- MP>プロンプトでは、次の項目を選択できます。

MP MAIN MENU:

CO: Consoles  
VFP: Virtual Front Panel  
CM: Command Menu  
CL: Console Logs  
SL: Show Event Logs  
FW: Firmware Update  
HE: Help  
X: Exit Connection

- EFIシェルおよびBoot Managerにアクセスするには、MP>プロンプトで**co**とタイプします。
  - EFIシェルからBoot Managerにアクセスするには、**exit**とタイプします。EFIシェルに戻るには、**[EFI Shell]**を強調表示して、**Enter**キーを押します。
  - MPメニューに戻るには、EFIシェル環境またはBoot Managerのいずれかで、**Ctrl+B**キーを押します。
- MPの使用について詳しくは、『HP Integrity Server Service Guide』を参照してください。

---

## インストール前についてのトラブルシューティングに関するヒント

### ヒント1. HDDの同期速度

起動時のコントローラの初期設定中に、HDDの同期速度が**80MB/秒**になっていることを確認してください。POST時に、この同期速度が表示されない場合、HDD、エンクロージャ（筐体）、またはコントローラに物理的な問題がある可能性があります。

### ヒント2. FSの番号

EFIで、FS（ファイル システム）番号が変化する（FS0がFS1になる）場合があります。この現象は、DVD-ROMドライブでメディアを挿入/取り出した場合によく発生します。FS番号の割り当てが常に固定されていると考えないでください。

### ヒント3. ハードディスク ドライブの容量サポート

マスタ ブート レコード（MBR）ディスク パーティショニング形式が最大2TBのボリュームおよびディスク当たり最大4つのプライマリ パーティション（または3つのプライマリ パーティションと1つの拡張パーティション、および無制限の論理ドライブ）をサポートするのに対して、GPTは、最大18EB（エクサバイト）のボリュームとディスク当たり最大128のパーティションをサポートします。

**注：**これは、EFI固有の機能です。

### ヒント4. Diskpart.efiを使用して、新しいGPTドライブをパーティション分割する

HP Smartアレイ コントローラを、ストレージ ドライブとして設定する場合は、64Kまたは128Kのストライプ サイズを使用してください。Diskpart.efiを使用して新しいGPTパーティションを作成する場合は、必ず、ドライブの最後の領域を2MB分空けておいてください。たとえば、空き容量が17365GBある場合は17363GBだけを使用して、必ず、ドライブの最後のパーティションの最後の領域を2MB分だけ空けておいてください。SCSIコントローラに接続されるハードディスク ドライブについても、同じ手順を実行することをおすすめします。

**注：**Diskpart.efiは、HP Smart Setup CDに収録されている、他社製ユーティリティです。Microsoft Windows Server 2003のFORMATコマンドは、Diskpart.efiを使用して作成されたEFIパーティションのフォーマットには使用できません。Diskpart.efiで作成されたディスク パーティションのフォーマットには、efifmt.efiを使用できます。

### ヒント5. システム ファームウェアの確認方法

EFIシェルで、次のコマンドをタイプします。

```
Shell:>info fw
```

このコマンドは、システム ファームウェアのすべてのバージョンを表示します。

### ヒント6. HP Integrityサーバでのグラフィック デバイスの初期化

Windowsがacpiconfig windowsモードに入っていれば、グラフィック デバイスは機能します。グラフィック カードをシステムにインストールする必要があります。インストールすると、ファームウェアが自動的にグラフィック カードを初期化してロードします。

---

HP Integrityサーバは、パーティション内で1台以上のグラフィック デバイスをサポートしません。グラフィック デバイスは、ルート セルに接続されたI/Oシャーシ内にある必要があります。

## II. OSの再インストール

この項では、システムをMicrosoft® Windows® Server 2003の新規インストールの状態に復旧するか、または以前にHP-UXまたはLinuxオペレーティング システム (OS) を実行していた既存のシステムにWindowsをインストールするために、再インストール用メディアを使用する方法について説明します。

この項の情報は、OSがプリインストールされたシステムのセットアップにも役立ちます。Mini-Setupプロセスの実行について説明している各項を参照してください。

### 1. 重要情報 (Windowsを起動する前に実行すべき手順)

再インストール用メディアの使用で、異常な動作や問題が発生する場合があります。この項では、これらの問題について説明します。

### 2. インストール

- a. HPの提供するオペレーティング システム再インストール用メディアを使用したMicrosoft Windows Server 2003のインストール
- b. HP再インストール用メディアからのOS再インストール後のシステム起動
- c. ヘッドレスMini-Setupブート
- d. ヘッドレス コンソールを使用した再インストール

### 3. トラブルシューティングに関するヒント

## 要件

- HP再インストール用メディア
- 正しく設定されたハードウェアを搭載したHP Integrityサーバ
- 「OSインストールの前のシステム セットアップ」で説明されている手順を正常に完了している。
- HP Integrityサーバrx8620およびrx7620は、EFI 1.10に準拠するシステムです。EFIリビジョン1.10と以前のEFIリビジョン1.02の違いにより、HP Integrityサーバrx8620およびrx7620プラットフォームで、PXE/ Remote Installation Servicesを使用してWindowsのインストールをサポートするには、ここで紹介するQFEが必要です。Microsoft社が提供するクイック フィックスおよびこの問題を回避するための手順については、Smart Setupメディア2.0の¥contents¥utilities¥qfe¥RISPXE\_QFEの下を確認してください。



---

## 重要情報

### OSインストール時のPNPの遅延

インストール時に、最短でI/Oシャーンシ当たり10～15分のPNPの遅延が発生します。

OSのPNPエンジンでは、I/Oカードがフルに搭載された各I/Oシャーンシの初期化を完了するのに約10～15分を要するため、インストールには30～90分かかります。

### どのドライブでイメージを受け取るのかについての混乱を防止する

複数のHDDを備えたボックスへのローカル インストールでは、ターゲット ドライブを除くすべてのドライブを取り外すことができます。この方法を使えば、どのドライブでイメージを受け取るのかについての混乱を容易に防止できます。

明確に区別されるボリューム ラベルのないリモート インストールでは、ターゲット パーティションの選択の際に、ボリュームの混同やさらにはドライブの破壊が容易に発生します。

**注：**すべてのデバイスを接続した後、HPサーバ エージェントをインストールする必要があります。そうしないと、ファイバ チャネル エージェントをインストールできない場合があります。

EFI VOLコマンドは、FAT32パーティションでのみ機能しますが、システム パーティションおよび他のすべてのFAT32パーティションにラベルを付けると、この混同によるリスクを軽減できます。

## インストール プランニング シート

インストールを開始する前に、次のプランニング シートに必要事項を記入してください。このシート  
の情報は、インストールの実行中に表示される各質問に回答するために必要です。

パーティションテーブル： \_\_\_\_\_ (ターゲット パーティションをリストする)

ユーザ名： \_\_\_\_\_

組織名： \_\_\_\_\_

ライセンス： \_\_\_\_\_

コンピュータ名： \_\_\_\_\_

Administratorのパスワード： \_\_\_\_\_

日付およびタイム ゾーン： \_\_\_\_\_

ワークグループまたはドメイン名： \_\_\_\_\_

プロダクト キー： \_\_\_\_\_

---

## 容量プランニング/パフォーマンスの基準設定

容量プランニング/パフォーマンスの基準設定のベスト プラクティスについては、このガイドでは説明しません。ただし、サーバの提供するパフォーマンス データを保持して、余分な容量についてのプランニングやパフォーマンスの問題が突然発生した場合のトラブルシューティングを簡単に行えるようにしてください。パフォーマンスの基準設定では、パフォーマンスが許容できる状態のときパフォーマンス データの記録と保存を行い、パフォーマンスが許容範囲を超えた場合に、比較基準として使用します。保管したパフォーマンスに関する記録は、問題をトラブルシューティングする際に、貴重なデータになる可能性があります。

容量のプランニングを行う場合は、最初に、次の各カウンタを監視することをおすすめします。

オブジェクト	カウンタ
プロセッサ	Percent of Processor Time
メモリ	Pages/sec、 Available Bytes、 Commit Limit、 Committed Bytes、 Pool Non-Paged Bytes
ページング ファイル	Percent of Usage Peak
物理ディスク	Percent of Disk Time、 Avg. Disk Seconds/Transfer
論理ディスク	Percent of Free Space
ネットワーク セグメント	Percent of Network Utilization
ネットワーク インタフェース	送信バイト、受信バイト、送受信バイト

**注：**このリストは、容量プランニングに必要なすべてのカウンタを含むものではありません。

これらのオブジェクトから入手したデータは、サポートとプランニングの両方に利用できます。これらのデータを、毎日監視してスレッショルドに到達しているかどうかを確認できます。

たとえば、長時間にわたって、ファイル/プリント サーバでPercent of Processor Timeが80%を超えるまたはAvailable bytesが1MB未満になる、物理ディスクのPercent of Disk Timeが67%を超える、Percent of Free Spaceが5%未満になる、あるいはEthernetセグメントでネットワーク セグメントのPercent of Network Utilizationが40%を超えるなどを知ることで、企業内の問題管理グループは、問題を抱えているシステムについて調査することができます。

---

## インストール方法

Windows Server 2003, Datacenter Editionのインストールには、次の2とおりの方法があります。

- HPが提供する再インストール用メディアを使用し、ビデオ/マウス/キーボードを用いた、VGA経由でのローカルインストール
- MSFリモート/高速インストールおよびHP再インストール（ヘッドレス接続）

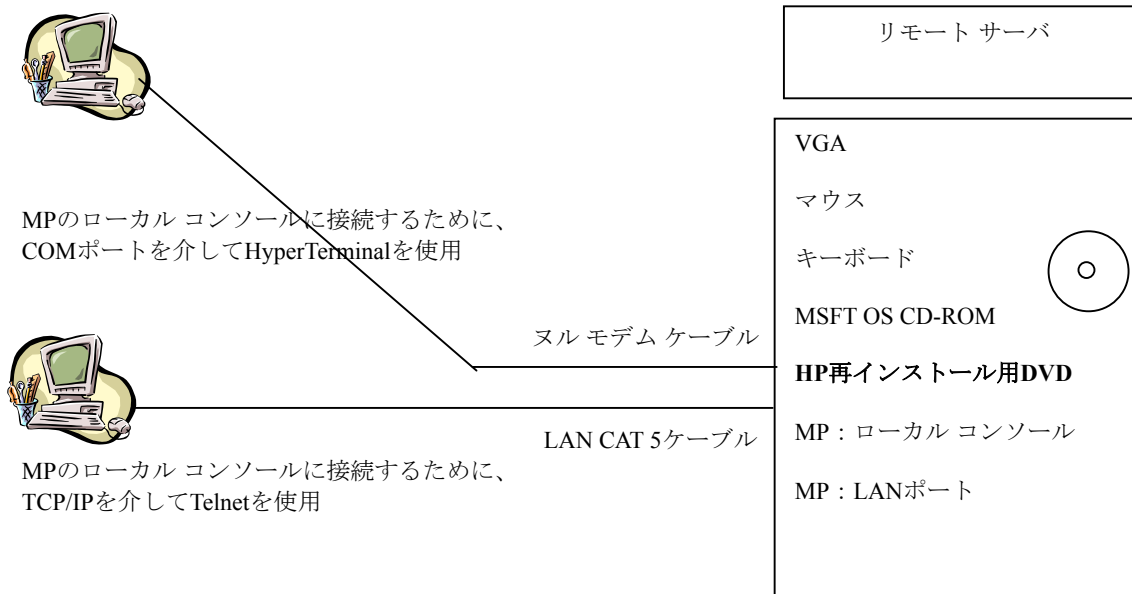
オペレーティング システムのインストールを開始する前に、次を確認してください。

- パーティションが正しく設定されている。Shell> info allコマンドを使用して、検出されたCPUの数およびDRAMを確認します。
- サーバのビデオ コントローラが機能している（VGAカードを使用）。
- サーバのビデオ コントローラが[EFI Boot Manager]メニューとEFIシェル プロンプトを表示している（VGAカードを使用）。
- サーバのUSBキーボードが[EFI Boot Manager]メニューとEFIシェル プロンプトで機能する。

## ビデオ/マウス/キーボードを使用したローカルインストール



## MSFリモート/高速インストールおよびHP再インストール



---

# Microsoft Windows Server 2003オペレーティング システムをインストール済みのHP Integrityサーバの起動

## サーバのビデオと基本USB入力デバイスのセットアップ

1. サーバのいずれかのUSBコネクタにUSBキーボードを挿入します。
2. サーバのいずれかのUSBコネクタにUSBマウスを挿入します。
3. サーバのビデオ コントローラにモニタを接続します。

## 手順

### 最初のシステム起動

手順	目標	方法
1	サーバの電源を入れ、Windows Mini-setupの質問に回答する。	<ol style="list-style-type: none"><li>1. サーバの電源を入れます。</li><li>2. Windowsは、EMSチャネル（リモート管理コンソール）が存在することを示すポップアップ画面を表示します。 <b>注：</b>起動プロセスのこの段階では、マウスおよびキーボードが機能し始めるには数分かかる場合があります。しばらくお待ちください。 EMSチャネルからインストールを完了する場合は、ローカル コンソールでは何もしないでEMSコンソールから次の情報を入力します。 ローカル コンソールからインストールを完了する場合は、<b>[OK]</b>をクリックして次に進み、ローカル コンソールから次の情報を入力します。</li><li>3. <b>[Welcome to the Windows Setup Wizard]</b>ウィンドウで、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>4. <b>[ライセンス契約]</b>ウィンドウで、<b>[同意します]</b>、<b>[次へ]</b>の順にクリックします。</li><li>5. <b>[地域と言語のオプション]</b>ウィンドウで、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>6. <b>[ソフトウェアの個人用設定]</b>ウィンドウで、名前と組織名を入力し、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>7. <b>[プロダクト キー]</b>ウィンドウで、プロダクト キーを入力し、<b>[次へ]</b>をクリックします。このIDは、ご使用のコンピュータに貼付されているラベルに記載されています。</li><li>8. <b>[ライセンス モード]</b>ウィンドウで、購入した適切なライセンスを選択し、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>9. <b>[コンピュータ名とAdministratorのパスワード]</b>ウィンドウで、コンピュータ名とパスワードを入力し、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>10. <b>[日付と時刻の設定]</b>ウィンドウで、正しい日付とタイム ゾーンを選択し、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li></ol>

---

続く

---

## 最初のシステム起動 (続き)

手順	目標	方法
2	セットアップ ウィザードを完了して、Windowsを起動する。	<ol style="list-style-type: none"><li>1. サーバは再起動し、EFI Boot Managerが起動します。</li><li>2. サーバはただちにWindowsを起動します。</li><li>3. <b>Alt+Ctl+Del</b>キーを押します。パスワードを入力して、Administratorとしてログインします。</li><li>4. Installing HP Agentが自動的に起動し、その後下記のメッセージが表示されます。 HP Agent installation finished. It is recommended to reboot the system now.</li><li>5. <b>[OK]</b>をクリックすると、サーバが再起動します。</li><li>6. 再度ログインし、デスクトップ上のIEのアイコンをダブルクリックし、<b>[Online Reference]</b>ショートカットを参照します。</li><li>7. 表示される情報をよく読みます。必要に応じて、このセクションでオプションのユーティリティをインストールできます。</li></ol>

---

## HPの提供するオペレーティング システム再インストール用メディアを使用したMicrosoft Windows Server 2003のインストール

システムにUSB EFIファームウェアおよびドライバがロードされている場合は、EFIシェル上での操作が可能です。また、HyperTerminal VT100ターミナル エミュレータをセットアップしなくてもインストールを実行できます。VT100ターミナル エミュレータを使用する場合は、EFI Boot Manager、EFIシェル環境、およびOSのテキストセットアップセクションでのみ、表示と操作が可能です。

### サーバのビデオと基本USB入力デバイスのセットアップ

1. サーバのいずれかのUSBコネクタにUSBキーボードを挿入します。
2. サーバのいずれかのUSBコネクタにUSBマウスを挿入します。
3. サーバのビデオ コントローラにモニタを接続します。
4. サーバの電源を入れて、EFIシェル環境でのビデオとUSBの機能をテストします。
5. EFIシェルでUSBキーボードが機能することと、ビデオにEFI Boot ManagerおよびEFIシェル画面が表示できることを確認してから、「ローカルのビデオ/マウス/キーボードを使用したオペレーティング システムのローカル インストール」に進みます。

## HP再インストール用メディアからOSを再インストール

HP再インストール用メディアからOSを再インストールするには、次の表を参照してください。

### HP再インストール用メディアからのOSの再インストール

手順	目標	方法
1	サーバを準備し、再インストール用メディアから起動する。	<ol style="list-style-type: none"><li>ブート コントローラとドライブを設定します。RAIDアダプタを使用する場合は、RAIDのインストレーション ガイドに従ってアダプタを準備し、RAIDタイプを設定します。  <b>警告：</b>インストールは、アダプタ0、ドライブ0として検出されるブート コントローラを対象に行われます。ブート コントローラ上の1台のドライブを除くすべてのドライブを取り外してから、再インストール プロセスを開始することをおすすめします。この手順を実行することにより、正しいドライブに容易にインストールできます。この手順を実行しないと、起動元にしたがったデバイスをインストールできなくなる場合があります。これは、Windowsセットアップの制限です。</li><li>DVDドライブにHP再インストール用メディアを挿入します。</li><li>次のいずれかの手順を実行することにより、このメディアから起動します。<ul style="list-style-type: none"><li>EFI Boot Managerが表示される場合は、EFI Boot Managerから <b>[Bootable DVD]</b> を選択します。</li></ul>または<ul style="list-style-type: none"><li><b>[EFI Shell]</b> を選択して、以下の各コマンドを入力します。</li></ul></li><li>DVDファイル システムを選択します。たとえば、FS1:&lt;CR&gt;とタイプします。</li><li>setupldr&lt;CR&gt;とタイプして、ローダを起動します。</li></ol>
2	システムを復旧する。	<ol style="list-style-type: none"><li><b>[Re-install]</b> をクリックします。</li><li>希望のパーティション サイズを入力します。 A=16G B=32G C=Max (最大ドライブ サイズ)</li><li><b>[OK]</b> をクリックして、続行します。</li><li>ファイルがDVDドライブからハードディスク ドライブにコピーされるのを待ちます。 <b>注：</b>復旧プロセスでは、99%完了状態の表示がかなりの時間続きます。このプロセスが完了するまで、サーバの電源を切らないでください。</li><li>表示されるメッセージをよく読みます。</li><li>ダイアログ ボックスで、<b>[OK]</b> をクリックして続行します。</li></ol>
3	再インストール用メディアを終了し、Windowsを起動する。	<ol style="list-style-type: none"><li><b>[Exit]</b> をクリックして、サーバを再起動します。</li><li>サーバはただちにWindowsを起動します。</li><li>「最初のシステム起動」の表にある最初のシステム セットアップに関する手順に従ってください。</li></ol>

---

## HP再インストール用メディアからOSを再インストールした後のシステムの起動

HP再インストール用メディアからOSを再インストールした後、最初にシステム起動する際の手順については、次の表を参照してください。

### HP再インストール用メディアからOSを再インストールした後の最初のシステムの起動

手順	目標	方法
1	サーバの電源を入れ、Windows Mini-setupの質問に回答する。	<ol style="list-style-type: none"><li>1. システムの電源を入れます。Windowsは、EMSチャネル（リモート管理コンソール）が存在することを示すポップアップ画面を表示します。  <b>注：</b>起動プロセスのこの段階では、マウスおよびキーボードが機能し始めるには数分かかる場合があります。しばらくお待ちください。</li><li>2. EMSチャネルからインストールを完了する場合は、ローカル コンソールでは何もしないで、EMSコンソールから次の情報を入力します。  ローカル コンソールからインストールを完了する場合は、<b>[OK]</b>をクリックして次に進み、ローカル コンソールから次の情報を入力します。</li><li>3. <b>[Welcome to the Windows Setup Wizard]</b>ウィンドウで<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>4. <b>[ライセンス契約]</b>ウィンドウで<b>[同意します]</b>、<b>[次へ]</b>の順にクリックします。</li><li>5. <b>[地域と言語のオプション]</b>ウィンドウで<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>6. <b>[ソフトウェアの個人用設定]</b>ウィンドウで、該当するフィールドに名前と組織名を入力し、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>7. <b>[プロダクト キー]</b>ウィンドウで、プロダクト キーIDを入力し、<b>[次へ]</b>をクリックします。このIDは、ご使用のコンピュータに貼付されているラベルに記載されています。</li><li>8. <b>[ライセンス モード]</b>ウィンドウで、購入した適切なライセンスを選択し、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>9. <b>[コンピュータ名とAdministratorのパスワード]</b>ウィンドウで、コンピュータ名とパスワードを該当するフィールドに入力し、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li><li>10. <b>[日付と時刻の設定]</b>ウィンドウで、正しい日付とタイム ゾーンを選択し、<b>[次へ]</b>をクリックします。</li></ol>

---

続く



---

## HP再インストール用メディアからOSを再インストールした後の最初のシステムの起動 (続き)

---

手順	目標	方法
2	セットアップ ウィザードを完了して、Windowsを起動する。	<ol style="list-style-type: none"><li>1. サーバは再起動し、EFI Boot Managerが起動します。</li><li>2. サーバはただちにWindowsを起動します。</li><li>3. <b>Alt+Ctl+Del</b>キーを押します。パスワードを入力して、Administratorとしてログインします。</li><li>4. Installing HP Agentが自動的に起動し、その後下記のメッセージが表示されます。 HP Agent installation finished. It is recommended to reboot the system now.</li><li>5. [OK]をクリックすると、サーバが再起動します。</li><li>6. 再度ログインし、デスクトップ上のIEのアイコンをダブルクリックし、<b>[Online Reference]</b>を参照します。</li><li>7. 表示される情報をよく読みます。必要に応じて、このセクションでオプションのユーティリティをインストールできます。</li></ol>

---

## ヘッドレスMini-Setupブート

Microsoft Windows Servers 2003は、起動プロセスのMini-Setup段階で、リモート コンソール ポートを使用してユーザと通信します。Microsoft社は、これをEMS (緊急管理サービス) と呼んでいます。HPでは、このポートをヘッドレス コンソール ポートと呼びます。

このMini-Setup段階は、再インストール用メディアを使用してイメージを復旧した後、最初にサーバを起動する際に発生します。

以下では、ヘッドレス コンソールMPポートを使用して、OSの起動をステップバイステップで行うための手順を説明します。なお、この手順には、MPカード上のLANポートまたはシリアル ポートを使用できます。

次の点に注意してください。

1. Windows XPクライアントでは、accessories¥communicationフォルダに、ターミナル サーバクライアントが格納されています。
2. Microsoft Windows 2000では、TSクライアントをインストールする必要があります。
3. このガイドでは、HyperTerminalの実行および設定方法の詳細については説明しません。
4. このガイドでは、MPコンソール ポートの設定方法の詳細については説明しません。

ターミナル エミュレータを使用して、ターゲット システム パーティションに接続し、「ヘッドレス コンソールを使用した再インストール」の項の手順5に移動してください。

以下の例では、パーティション0に接続しています。

MP login: Admin

MP password: Admin <または、任意のパスワード>

---

```
[サーバ名] MP> co
Partitions available:
# Name
--- ----
0) Partition 0
1) Partition 1
2) Partition 2
4) Partition 4
5) Partition 5
Q) Quit
```

```
Please select partition number: 0
SAC>
```

## ヘッドレス コンソールを使用した再インストール

1. DVD-ROMドライブにDVDをマウントします。
2. リモート コンソールからパーティションをリセットします。  
以下の例では、パーティション0を対象にしています。

=====リセット例の開始=====

```
3. MP login: Admin
MP password: Admin (または、ユーザに割り当てられたパスワード)
[サーバ名] MP> cm
[サーバ名] MP:CM> rs
```

このコマンドにより、選択したパーティションがリセットされます。



**警告**：このコマンドを実行すると、すべてのシステム処理およびI/O動作が停止し、その後、選択されたパーティションが再起動します。この手順を、元に戻すことはできません。

---

```
# Name
--- ----
0) Partition 0
1) Partition 1
2) Partition 2
4) Partition 4
5) Partition 5
```

---

Select a partition number: 0

Do you want to reset partition number 0? (Y/[N])Y

=====リセット例の終了=====

4. リモート コンソールで、EFI Boot ManagerからDVDを起動することを選択するか、またはEFIプロンプトでsetupldrとタイプしてください。  
例：  
Shell> setupldr <Enter>
5. ヘッドレス コンソールの、SAC>プロンプトで、CMDとタイプします。
6. **Esc+Tab**キーを押して、新しいコマンドプロンプトチャンネルに切り替えます。
7. txtrestoreとタイプして、インストレーション メニューを起動します。
8. パーティション サイズを選択します。
9. 復旧が終わるまで待ちます。
10. コンピュータの再起動方法については、画面の指示に従います。

システムからビデオ カードが取り外されている場合、ここで、**[Exit]**をクリックすることにより、コンピュータを再起動できます。

11. メイン コンソールまたはVGAディスプレイでは（存在する場合）、EMSが検出されたことを示すメッセージが画面に表示されます。ローカル コンソールのKB/MSを使用する場合は、**[OK]**をクリックしてください。ここでは、**[OK]**をクリックしないでください。
12. リモート コンソールに移動して、SAC>プロンプトが表示されるのを待ちます。
13. **Esc+Tab**キーを押して、チャンネル1に切り替えます。以下の情報が表示されます。

```
*****
Name:                               Unattended Setup Channel
Description:                         Provide parameters to automate Setup
Type:                                 VT-UTF8
Channel GUID:                        0cfc0ee2-3a27-11d7-8484-806e6f6e6963
Application Type GUID: 00000000-0000-0000-0000-000000000000

Press <esc><tab> for next channel.
Press <esc><tab>0 to return to the SAC channel.
Use any other key to view this channel.
*****
```

- 
14. チャネル データ リンクを起動するには、任意のキーを押します。

Press PAGE DOWN for next page.

15. **F8**キーを押して、使用許諾契約に同意します。

**注** : F8 = <Escape>8 は、Windowsのデフォルト ターミナル エミュレータ用のキー シーケンスです。また、必ず、**Esc**キーを押して、2秒以内に番号キー8を押してください。そうしないと、**Esc**キーのみが解釈されるため、システムが再起動します。

出所に関する証明書の下側には、25文字のプロダクト キーが示されています。

次の書式で、プロダクト キーをタイプします。

XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

16. Product ID : "-"を区切り記号として使用して、PIDを入力します。たとえば、次のように入力します。

>> XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX

このマシンでAdministratorアカウント用に使用するパスワードを入力します。このフィールドを空白にすることはできません。Administrator Password:

17. xxxxxx (これは、一例です)

Administratorパスワードを再入力します。

Password Confirmation:

18. xxxxxx (これは、一例です)

以降、セットアップは、自動モードで続行されます。

\* MiniSetupが完了するのを待ちます。

\* システムは再起動します。

\* SAC>プロンプトが表示されます。

\* DHCPサーバがない場合、IPアドレスを取得して、ターミナル サーバ サービスと接続してください。なお、"I"コマンドを使用して、ご使用のネットワークに合うようにIPアドレスを変更することもできます。

SAC>i

Net: 2, Ip=xxx.xxx.x.xxx Subnet= xxx.xxx.xxx.x

Gateway= xxx.xxx.x.x

---

\*Windows XPまたはWindows 2000ターミナル サーバ クライアントを起動して、xxx.xxx.x.xxxに接続し、必要に応じて、コンピュータ名およびIPアドレスを変更します。

ヘッドレス インストールが完了した時点では、登録ユーザおよび企業名が設定されていません。以下の手順を実行して、適切な情報を入力してください。

1. デスクトップの[OnlineReference]ページを開きます。
2. ページを下方向にスクロールして、[c:\hp\utils\usercompanyname.com]ホットリンクをクリックをします。
3. [Open]をクリックします。
4. 各プロンプトに答えて、企業名とユーザ名を入力します。
5. 情報を確認して、[OK]をクリックします。

コマンドプロンプトからsysteminfo.exeを実行して、変更を確認してください。

## OSの再インストールについてのトラブルシューティングに関するヒント

### ヒント1. 非表示のデバイスを有効にすると、デバイス マネージャの[Non-Plug and Play Drivers]の下に連続した黄色の感嘆符（黄色のアラート アイコン）が表示される場合がある

デバイス マネージャで[非表示のデバイスを表示]を有効にした場合のみ、デバイス マネージャの[Non-Plug and Play Drivers]の下に連続した黄色の感嘆符が表示されます。

システム内で従来型のシリアル デバイスが検出されない場合、OSは、シリアル オプションに対して黄色の感嘆符を生成します。HP Integrityサーバrx8620/rx7620には、従来型のシリアル デバイスがいないため、この状態は必ず発生します。

### ヒント2. 再インストール用メディアを使用した場合、16GBオプションを使用しないでください。

システム パーティションは、32GB以上のディスク ドライブ上で構築する必要があります。再インストール用メディアを使用する場合、管理者およびCEは、システム ボリュームを構成する際に32GBまたは最大ドライブ サイズのオプションを使用する必要があります。ページ ファイル サイズを後になって手動で設定しない限り、16GBオプションを使用すると、システム障害の際にカーネル メモリ ダンプを作成できなくなります。さらに、16GBオプションを使用する際にページ ファイル サイズを手動設定すると、ページファイル サイズは最小推奨サイズの20GBより少なくなります。

---

### ヒント3. Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionドライバの署名

Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionは、ドライバ ファイルのデジタル署名を確認して、システムの整合性を確保できるようにします。ドライバのインストール中または更新中、一致する署名ファイルがない場合、Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionでは[デジタル署名が見つかりませんでした]ダイアログ ボックスが表示されます。

HPは、Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Edition製品の将来のリリースで、署名ファイルのないドライバを出荷することがあります。Hewlett-Packardが提供するすべてのMicrosoft Windows Server 2003, Datacenter Editionドライバは、Microsoft社に提出され動作確認のテストが行われます。テストが完了すると、Microsoft社は、署名ファイルを作成します。HPは、その時点でドライバの改訂版パッケージをHPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）で提供します。

ドライバのインストール中に署名に関する警告が表示された場合、警告を無視できます。HPのWebサイトにアクセスして、最新のドライバ パッケージが提供されていないかどうかを調べることをおすすめします。新しいドライバが提供されている場合は、インストールしてください。

Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionが署名を無視するように設定することもできます。[マイ コンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]、[ハードウェア]、[ドライバの署名]の順に選択し、[無視 - ソフトウェアをインストールし、確認を求めない]を選択します。複数のシステムをセットアップする場合は、この方法が役立ちます。

デジタル署名は、ドライバの提供がHewlett-Packardによるものか他社によるものかに関わらず、システムにドライバを追加する際にシステムの整合性を確保するための強力な方法です。

## パーティション対応システムに関するヒントと問題点

### FRU LEDを介したエラー メッセージ

HP Integrityサーバrx8620およびrx7620には、I/OシャーシまたはキャビネットLEDがありません。したがって、FRU LEDが点灯すると、以下のエラー メッセージが表示される場合があります。

"Error: LED operation on cabinet X failed"

"Error: LED operation on component X failed."

---

## III. Windowsの設定

この項は、再インストール用メディアを使用して正常にインストールされたHP Integrityサーバ、またはHPがプリインストールして出荷したHP Integrityサーバ上で、Microsoft® Windows®を設定する際に役立ちます。

以下の各項では、次について説明します。

1. 重要情報
2. Windowsを正しくセットするための、重要なヒント
3. インストール完了後のOSの設定
4. トラブルシューティングに関するヒント

### 要件

Microsoft Windows Server 2003がインストールされ、セットアップと設定が完了しているHP Integrityサーバ

### 重要情報

#### NVRブート - ブート オプションの管理

これは、IA32のboot.iniとよく似ています。「NOVESAブート オプションの設定」を参照してください。

### Windows設定についてのヒント

#### SAC (Special Administration Console) プロンプトからのWindowsの再起動

ヘッドレス接続から、SACプロンプトSAC>restartまたはSAC>shutdown経由でシステムを再起動すると、次にログインする際に、システムで予想外のシャットダウンが発生したことを示すダイアログボックスをWindowsは表示します。

システムにより制御されるシャットダウンを実行したい場合、SACプロンプトで**コマンド** プロンプトを起動し、**shutdown.exe**を使用すると、以下で説明するように制御されたシャットダウンを実行できます。システムがハングする場合、SACもハングします。

---

## SAC>プロンプトからのOSのシャットダウン方法

1. SAC>プロンプトから、コマンドチャンネルを作成します。

```
SAC>cmd
The Command Prompt session was successfully launched.
SAC>
EVENT: A new channel has been created. Use "ch -?" for channel help.
Channel: Cmd0001
SAC>
```

2. **ESC**キー、**TAB**キーを同時に押して、チャンネルCMD0001に切り替えます。

```
Name: Cmd0001
Description: Command Prompt
Type: VT-UTF8
Channel GUID: 39ffb321-b8b1-11d7-8335-505054503030
Application Type GUID: 63d02271-8aa4-11d5-bccf-00b0d014a2d0
```

Press <esc><tab> for next channel.

Press <esc><tab>0 to return to the SAC channel.

Use any other key to view this channel.

3. 任意のキーを押して、チャンネルを開き、管理者のユーザ名およびパスワードをタイプします。

```
Please enter login credentials.
Username: Administrator
Domain :
Password: *****
```

4. ここで、shutdown.exeを使用して、シャットダウンまたは再起動を行います。

すばやく再起動する例：

```
Microsoft Windows [Version 5.2.3790]
(C) Copyright 1985-2003 Microsoft Corp.
```

```
C:\windows\system32>shutdown -r -t 0
-r - Shutdown and restart the system
-t 0 - No delay in shutdown the system
```



---

## NOVESAブート オプションの設定

**注**：HPプリインストール用メディアを使用してプリロードされているシステムには、NOVESA設定が追加済みです。また、NOVESA設定は、HP再インストール用メディアからインストールされます。

Windowsの従来のVGAドライバには問題があります。このため、インストールの際に、/NOVESAブート オプションを使用して、拡張VESAモードを無効にする必要があります。これは、プリロードされたWindowsインストレーションに組み込まれた機能として、自動的に実行されます。

このフラグを削除しないでください。このフラグは、主には、インストール用に必要ですが、このフラグを削除すると、将来、特定の状況下で、ブルー スクリーンが表示されることがあります（可能性のあるケース：Windowsを更新した場合、VGAカードを別のスロットに移動した場合、パーティションに別のI/Oシャーシを追加した場合）。

### OSブート ロードでの/NOVESAフラグの追加/削除/確認方法

1. EFIシェルで、MSUTILディレクトリに移動して、NVRBOOT.EFIコマンドを実行します。

```
fs1:¥> dir
Directory of: fs1:¥

    07/17/03  11:48a                127  fail_file.txt
    03/25/03  05:00a             841,216  SETUPLDR.EFI
    06/25/03  11:14a <DIR>         1,024  EFI
    06/25/03  11:14a <DIR>         1,024  MSUtil
                2 File(s)      841,343 bytes
                2 Dir(s)

fs1:¥> cd msutil
fs1:¥MSUtil> nvrboot
NVRBOOT: OS Boot Options Maintenance Tool [Version 5.2.3683]

* 1. Windows Server 2003, Datacenter
  2. EFI Shell [Built-in]

* = Windows OS boot option

(D)isplay (M)odify (C)opy E(x)port (I)mport (E)rase (P)ush (H)elp (Q)uit
2. m (変更) を選択して、OSブート ロードを変更します。
Select> m
3. 変更するOSブート オプションを入力します。
Enter OS boot option to modify: 1
```

4. 変更するVARを2と入力します。
  - a. LoadIdentifier = Windows Server 2003, Datacenter
  - b. OsLoadOptions = /redirect
  - c. EfiOsLoaderFilePath = cf5f2ddc-b885-11d7-b831-000000000000 :: ¥efi¥microsoft¥winnt50¥ia64ldr.efi
  - d. OsLoaderFilePath = e605a034-b885-11d7-b831-000000000000 :: ¥windows

```
Enter var to modify: 2
```
5. /NOVESAオプションを付けてOsLoadOptionsを再度タイプします（このオプションをOSブートローダから削除するため）。
 

```
Enter var to modify: 2
```

```
OsLoadOptions = /redirect /novesa
```
6. OsLoadOptionsに、/novesaが表示されます。
  - a. LoadIdentifier = Windows Server 2003, Datacenter
  - b. OsLoadOptions = /redirect /novesa
  - c. EfiOsLoaderFilePath = cf5f2ddc-b885-11d7-b831-000000000000 :: ¥efi¥microsoft¥winnt50¥ia64ldr.efi
  - d. OsLoaderFilePath = e605a034-b885-11d7-b831-000000000000 :: ¥windows
7. 終了して、OSを起動します。

## カーネル デバッガのセットアップ

### デバッグケーブルのピンアウト

HP Integrityサーバは、非標準カーネル デバッガ ポートを使用し、DB9-RJ-45アダプタを必要とします。次の表に、このアダプタのピンアウトを示します。

**表1：ピンアウト**

DB9	RJ45
2	ブラウン
3	緑
5	オレンジ
7	青
8	赤

このRJ-45コネクタをパーティションのルートセルのデバッグ ポートに挿入する必要があります。

---

## Windowsカーネル デバッグ ポート

HP Integrity rx8620およびrx7620には、サポート デバッグ ポート（HPのフィールド サポートの担当者用）と共有されるカーネル デバッグ ポートがあります。このポートは、RJ-45ポートで、RJ-45をDB9コネクタに変換する特別なケーブルとともに使用します。付属の図に、位置と必要な配線が説明されています。

この共有ポートは、デフォルトでは、サポート デバッグ ポートとして使用するよう設定されています。このため、Windowsカーネル デバッグとしては使用できません。このポートをWindowsカーネル デバッグ用に有効にする場合は、kd.efiと呼ばれる付属のEFIアプリケーションを使用できます。kd.efiは、Windowsの/DEBUGおよび/BAUDRATEブート オプションを使用したオペレーティング システムのポートを有効にするために標準的な方法に加えて必要です。kd.efiを使用する手順は、Windowsでの手順に加えて実行する必要があります。kdアプリケーションには、"-on"と"-off"の2つのオプションがあります。たとえば、ポートを有効にするには、EFIシェルで次のように入力する必要があります。

```
Shell> kd -on
=====
KD Kernel Debug Port Enabler
=====
The KD port has been turned ON
Any changes to the KD port will remain persistent
across reboots and power down, as long as power
is supplied to the server.
Shell>
```

変更した値は、再起動後有効になり、電源を切断するまで有効です。ポートは、サーバの電源が切断されるか、EFIシェルで"kd -off"を使用する場合のみ、デフォルトのサポート デバッグ ポートにリセットされます。

---

## デバッグ オプション

### OSブート ロードでのDEBUGフラグの追加方法

1. EFIシェルで、MSUTILディレクトリに移動して、NVRBOOT.EFIコマンドを実行します。

```
fs1:¥> dir
Directory of: fs1:¥

    07/17/03  11:48a                127  fail_file.txt
    03/25/03  05:00a                841,216  SETUPLDR.EFI
    06/25/03  11:14a <DIR>                1,024  EFI
    06/25/03  11:14a <DIR>                1,024  MSUtil
           2 File(s)      841,343 bytes
           2 Dir(s)
```

```
fs1:¥> cd msutil
fs1:¥MSUtil> nvrboot
```

2. **m (変更)** を選択して、OSブート ロードを変更します。  
Select> m
3. 変更するOSブート オプションを入力します。  
Enter OS boot option to modify: 1
4. 変更するVARを2と入力します。
  - a. LoadIdentifier = Windows Server 2003, Datacenter
  - b. OsLoadOptions = /REDIRECT /NOVESA
  - c. EfiOsLoaderFilePath = cf5f2ddc-b885-11d7-b831-000000000000 :: ¥efi¥microsoft¥winnt50¥ia64ldr.efi
  - d. OsLoaderFilePath = e605a034-b885-11d7-b831-000000000000 :: ¥windows
  - e. Enter var to modify: 2
5. /DEBUG /BAUDRATE=115200オプションを使用して、OsLoadOptionsを再度タイプします。  
Enter var to modify: 2  
OsLoadOptions = /REDIRECT /NOVESA /DEBUG /BAUDRATE=115200

- 
6. OsLoadOptionsに、/DEBUG /BAUDRATE=115200が表示されます。
    - a. LoadIdentifier = Windows Server 2003, Datacenter
    - b. OsLoadOptions = /REDIRECT /NOVESA /DEBUG /BAUDRATE=115200
    - c. EfiOsLoaderFilePath = cf5f2ddc-b885-11d7-b831-000000000000 :: ¥efi¥microsoft¥winnt50¥ia64ldr.efi
    - d. OsLoaderFilePath = e605a034-b885-11d7-b831-000000000000 :: ¥windows
  7. 終了して、OSを起動します。

## OSの再インストール後にターミナル サービスを有効にする

**注：**HP再インストール用メディアを使用してプリロードされたシステムには、NOVESA設定オプションが追加済みです。

ヘッドレス構成で、DVDリストアを実行した場合、ターミナル サービスを使用して、システムにログインした後、以下の手順を追加で実行する必要があります。

1. GUIセットアップ状態が終了し、OSが再起動するのを待ちます。
2. SACプロンプトから、いずれかのNICにIPアドレスを割り当てます。

DHCPサーバがない場合、ターミナル サーバ サービスに接続するために、IPアドレスを取得します。なお、"I"コマンドを使用して、ご使用のネットワークに合うようにIPアドレスを変更することもできます。ただし、この変更は一時的にのみ有効です。ユーザは、Windowsでは[ネットワーク接続]プロパティ ページに移動して、そこでIPアドレス パラメータを変更し、永続的な値として保存する必要があります。

```
SAC>I2, 192.168.0.255 255.255.255.0 192.168.0.1
```

Windows XPまたはWindows 2000ターミナル サーバ クライアントを起動して、192.168.0.255に接続し、必要に応じて、コンピュータ名およびIPアドレスを変更します。

3. リモート デスクトップから、前の手順でIPアドレスを割り当てたNICを介してサーバにログオンします。

## クライアント上でリモート デスクトップ接続を起動する

1. リモート デスクトップを起動します（通常、[アクセサリ]の[通信]にあります）。
2. 企業ネットワークに接続されているHP IntegrityサーバシステムのLANのIPアドレスを入力します。
3. [ユーザ名]ボックスに管理者権限を持つユーザ名を入力し、[パスワード]ボックスにパスワードを入力します。

---

## Microsoftデバッガのインストールと実行方法

詳しくは、Microsoft社のWebサイト<http://www.microsoft.com/whdc/ddk/debugging/default.mspx>を参照してください。

カーネルデバッグクライアントのセットアップについては、デバッガのマニュアルを参照してください。

## I/Oスロットの解釈

ハードウェア デバイス マネージャおよびシステム トレイにWindowsが表示するスロット番号は、I/Oシャーシにシルクスクリーンで印刷されているスロット番号だけでなく、フルI/Oパスを含みます。スロット番号のフォーマットは、次のとおりです。

### HP Integrity Superdomeの場合

CBHSS

キー：

C - キャビネット番号

B - ベイ番号

H - I/Oシャーシ番号

SS - 10進表記の2桁のスロット番号

**注：**Windowsは先頭部の0を表示しないため、これらの桁は表示されませんが、それ以外のケースでは、これらの値は0になります。

ただし、管理エージェントは、より分かりやすい形式で、I/Oカードのフルパスを表示します。

例：PCI Slot 80101

C = "8" = I/Oキャビネット番号8

B = "0" = ベイ番号0

H = "1" = シャーシ番号1

SS = "01" = PCIスロット番号1

### HP Integrity rx8620/rx7620サーバの場合

例：PCI Slot 101

H = "1" = シャーシ番号1

SS = "01" = PCIスロット番号1

## Windowsターミナル サーバからのコンソール アクセス

Windowsターミナル サーバからコンソールを表示するには、`mstsc.exe /console`を実行します。

---

## Windowsからの不揮発性RAMの表示および編集方法

Windows OSからNVRAMの設定を表示および編集するには、コマンド プロンプトに移動して、次のようにタイプしてください。

```
Bootcfg /?
```

### 説明

このコマンド ライン ツールにより、NVRAMのブート エントリの設定を設定、照会、変更、または削除できます。

### パラメータ リスト

/Copy	既存のブート エントリのコピーを作成します。
/Delete	NVRAMから既存のブート エントリを削除します。
/Query	既存のブート エントリとその設定を表示します。
/Raw	指定したブート エントリに追加するスイッチを指定できます。
/Timeout	タイムアウト値を変更できます。
/Default	デフォルト ブート エントリを変更できます。
/EMS	/redirectスイッチを、ヘッドレスをサポートするように設定できます。
/Debug	デバッグ用のポートとボーレートを設定できます。
/Addsw	定義済みのスイッチを追加できます。
/Rmsw	定義済みのスイッチを削除できます。
/Dbg1394	ポート1394をデバッグ用に設定できます。
/Mirror	ミラー化されているドライブの情報を追加できます。
/List	ドライブについての情報を一覧表示できます。
/Update	ドライブのパーティション情報を更新できます。
/Clone	ドライブ上のブート エントリをクローニングできます。
/?	次のヘルプ メッセージを表示します。

You can get further information on each command by typing bootcfg /Parameter /?.

## Windows OSからのEFIパーティションへのアクセス

コマンド プロンプトで、次のようにタイプします。

```
mountvol x: /S
```

これにより、x:¥ドライブがefiパーティションとしてマップされます。これにより、Windowsパーティションとefiパーティションの間で、ファイルやデータを移動できます。なお、マップできるEFIパーティションは1つだけです。

## デフォルトVGAコントローラ

パーティションに複数のVGAカードがある場合、サポートされているVGAカードは、ルート セルにあります。ブート オプションの[**Boot option maintenance menu**]の[**Active Console Output Devices**]で、デフォルトのVGAが有効になっていることを確認してください。

ルート セルをチェックするには、EFI Shell>で、ROOTCELLコマンドをタイプします。このコマンドにより、ルート セルの番号が表示されます。ルート セルに接続されているI/Oシャーシを確認するには、EFIプロンプトで、info ioとタイプしてください。

---

## 偶然オフになったターミナル サービス キーをオンにする方法

Windowsは、ヘッドレス構成（VGAグラフィック アダプタなし）でサポートされます。このため、VGA コンソールに接続する代わりに、ターミナル サービスを使用することができます。プリロードされた Windows インストールでは、この機能はデフォルトで有効になっています。ただし、この機能が偶然オフになっている場合があります。その場合は、**[マイ コンピュータ]**の**[リモート]**タブを使用して、グラフィック モードでオンにすることができます。ヘッドレス モードでは、レジストリを変更する必要があります。コマンド チャネルを使用したレジストリの変更については、「リモート コントロール セッション：リモート デスクトップの起動」を参照してください。

## NIC ドライバのアップグレード

NIC ドライバをアップグレードする場合、Windows を介して実行してください。ただし、アップグレードを実行する前に、バックボーン NIC の IP アドレスをメモしておいてください。バックボーン NIC は、DHCP を介して IP アドレスを割り当てられる場合が多く、ドライバの再インストール時に新しいアドレスの割り当てが行われる可能性があるため、この手順は重要です。IP アドレスをメモしたら、アップグレードを開始してください。これにより、サーバの再起動後、バックボーン NIC に確実に接続できます。

## ターミナル サービスを介した管理セッションの起動

ターミナル サービスをグラフィック コンソールへのアクセス手段として使用する場合、システム イベントおよび特定の対話が当該のセッションにのみ送信され、他のリモート管理セッションには送信されないように、ターミナル サービス クライアント (mstsc.exe) に /console スイッチを指定する必要があります。

## 64ビット システム上の Internet Explorer で、Adobe Acrobat Reader バージョン 6.0 が PDF 文書を表示しない

**問題：** Smart Setup を使用して、64ビット システムで Internet Explorer を介して PDF 文書を表示しようとしても、Adobe Acrobat Reader 6.0 では PDF ファイルが正しく表示されません。

**回避策：** Smart Setup を Internet Explorer の 32ビット バージョンで開くか、または、別のウィンドウで PDF ファイルを開くように Acrobat Reader 6.0 を設定します。この回避策を実行するには、以下の手順に従ってください。

1. **Acrobat Reader** を開き、**[編集]** メニューを使用します。
2. **[環境設定]** を選択します。
3. **[インターネット]** を選択します。
4. **[PDF をブラウザに表示]** オプションのチェックを外します。
5. **[OK]** を選択して、変更を保存し終了します。
6. Internet Explorer を再起動すると、PDF ファイルが正しく表示されます。



## SCSIパリティ エラー

**問題：**TA5300テープ アレイに内蔵のSCSI接続のDVDドライブを含む構成は、システム イベント ログにEvent ID 5メッセージ"A parity error was detected on ¥Device¥Scsi¥sym\_u31."を生成します。このイベントは、サーバを再起動するときに生成されます。また、稼動中にも生成される場合があります。

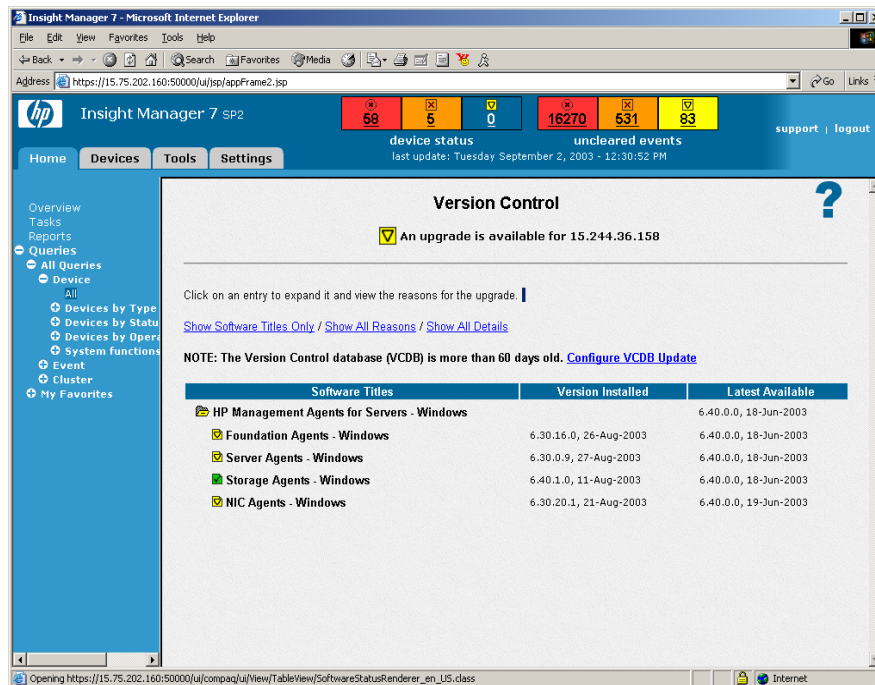
**回避策：**処置は必要ありません。このメッセージの重大度レベルは「エラー」ですが、システムの整合性やパフォーマンスには影響しません。

## 旧バージョンコントロール

**問題：**Insightマネージャ7は、旧バージョン コントロールと呼ばれる機能を組み込んでいます。この機能は、Windows Server用のHPマネジメント エージェントなど最新のソフトウェアを含むレポジトリを備えています。Windows Server 2003 64ビットOSを実行するHP IntegrityサーバにHPマネジメント エージェントがインストールされている場合、インストールされているエージェントのバージョン番号がバージョン コントロール データベースのものより古いと、旧バージョン コントロールは、アップグレードが利用できることを表示します。

次の図に示すアップグレード ステータスは間違っています。HPマネジメント エージェントのバージョン2.2以下のリリースの最初の段階では、旧バージョン コントロールの機能はサポートされません。この機能は、バージョン コントロール データベースの次のアップデートでサポートされる予定です。

**回避策：**旧バージョン コントロールの機能を使用しないでください。



The screenshot shows the Insight Manager 7 SP2 interface. At the top, there are status indicators for device status (58 OK, 5 Error, 0 Warning) and uncleared events (16270 OK, 531 Error, 83 Warning). The main content area is titled "Version Control" and displays a message: "An upgrade is available for 15.244.36.158". Below this, there are links for "Show Software Titles Only", "Show All Reasons", and "Show All Details". A note states: "NOTE: The Version Control database (VCDB) is more than 60 days old. [Configure VCDB Update](#)".

Software Titles	Version Installed	Latest Available
HP Management Agents for Servers - Windows		6.40.0.0, 18-Jun-2003
Foundation Agents - Windows	6.30.16.0, 26-Aug-2003	6.40.0.0, 18-Jun-2003
Server Agents - Windows	6.30.0.9, 27-Aug-2003	6.40.0.0, 18-Jun-2003
Storage Agents - Windows	6.40.1.0, 11-Aug-2003	6.40.0.0, 18-Jun-2003
NIC Agents - Windows	6.30.20.1, 21-Aug-2003	6.40.0.0, 19-Jun-2003

---

**注：** HP Integrityサーバのスタート ガイドやセットアップ/インストール ガイドでは、以下の問題は説明されていませんでした。このため、以下の各項で説明します。

## HP Insightストレージ エージェントとアレイ コンフィギュレーション ユーティリティの起動

**問題：** デバイス マネージャで、Smartアレイ6400コントローラのドライバのプロパティを表示すると、高度な[Tools]メニュー バーが表示されます。このバーには、HP Insightストレージ エージェントおよびアレイ コンフィギュレーション ユーティリティを起動するためのラジオ ボタンがあります。ドライバのこのリリースでは、どちらのボタンも機能しません。

**回避策：** 推奨される、HPストレージ エージェントの起動方法は、以下のとおりです。

1. [スタート]メニューから[管理]ショートカットを開き、[サービス]を開きます ([スタート]メニューから、[設定]、[コントロールパネル]、[サービス]の順にクリックすることもできます)。
2. [HP Insight Storage Agents]という名前のエントリを見つけます。
3. そのエントリを右クリックして、[開始]を選択します。

推奨される、アレイ コンフィギュレーション ユーティリティの起動方法は、以下のとおりです。

1. [スタート]メニューをクリックします。
2. [hp System Tools]をクリックします。
3. [hp Array Configuration Utility XE]をクリックします。

**注：** ACUを使用するために、スタート メニューの[Program Files X86]の下にある[Internet Explorer 32ビット]を使用しなければなりません。

## 16枚を超えるHBAが接続されている場合、LSI SCSIエージェントがデバイス情報を返さない

**問題：** SCSIエージェントでサポートされるHBAの最大数は、16です。16枚を超えるHBAを取り付けていると、エージェントは、最初の16枚のHBAについてのSNMP情報のみをレポートします。また、SCSIデバイス情報をまったく返しません。エージェントから見ると、HBAはSCSIカードの1つのポートです。デュアルポート1010 SCSIカードを取り付けている場合、これは2枚のHBAとみなされます。そのため、8枚のデュアル ポートSCSI 1010カードを取り付けている場合、16枚のHBAを取り付けているのと同じになります。

**回避策：** 現時点の唯一の対策は、16枚を超えるHBAを取り付けないことです。

## SCSIコントローラを追加すると、SNMPサービスが停止する場合がある

**問題：** SCSI 1010コントローラを追加すると、システムの再起動時にSNMPサービスが自動的に停止することがあります。

**回避策：** サービス コントロール マネージャを開いてください。HP Insightエージェント サービスを停止してから開始します。SNMPサービスを開始します。これにより、エージェントは正常に動作するようになります。

---

## LSI SCSIドライバのアップグレード

LSI SCSIドライバをアップグレードするには、各チャンネルを個別にアップグレードしてください。

## Windows設定の完了

### ヘッドレス構成でのWindowsへのログイン

1. SACプロンプトで、IPアドレスを取得します。IPアドレスが割り当てられていない場合は、いずれかのNICのIPアドレスを設定します。SACからIPアドレスを設定した場合、この設定は一時的なものであり、システムが再起動すると消去されます。固定的なIPアドレスを設定するには、WindowsにログインしてIPアドレスを設定する必要があります。

**注：** Windowsをブリロードしているシステムでは、これはデフォルトで有効になっています。

### SAC - HP Integrityシステム上のLAN用にIPアドレスを割り当てる

1. SACプロンプトで、Iとタイプします。これによって、システム内のNICとそのIP設定を表示します。  
Net: 3, Ip=1.1.1.1 Subnet=2.2.2.2 Gateway=3.3.3.3  
Net: 2, Ip=0.0.0.0 Subnet=0.0.0.0 Gateway=0.0.0.0
2. 企業ネットワーク内に接続されているNICを見つけます。
3. SACプロンプトで、I<NIC番号> <ip> <サブネット マスク> <ゲートウェイ>とタイプします。  
i 2 xx.xx.xxx.xxx xxx.xxx.xxx.x xx.xx.xxx.x
4. リモート デスクトップから、前の手順でIPアドレスを割り当てたNICを介して、HP Integrityサーバにログインします。
5. リモート デスクトップを起動するには、以下の手順に従います。

### リモート デスクトップの起動方法

1. リモート デスクトップを起動します（通常、[アクセサリ]の[通信]にあります）。
2. 企業ネットワークに接続されているHP IntegrityサーバのLANカードのIPアドレスまたはコンピュータ名を入力します。
3. [ユーザ名]ボックスに管理者権限を持つユーザ名を入力し、[パスワード]ボックスにパスワードを入力します。

---

## SACチャンネルの作成

コマンドチャンネルを作成するには、次のようにタイプします。

```
SAC>cmd
```

```
The Command Prompt session was successfully launched.
```

```
SAC>
```

```
EVENT: A new channel has been created. Use "ch -?" for channel help.
```

```
Channel: Cmd0001
```

```
SAC>ch          すべてのチャンネルを表示します。
```

# Status	Channel Name
0 (AV)	SAC
1 (AV)	Cmd0001

新しいチャンネルを開くには、**ESC**キーと**TAB**キーを同時に押してチャンネルを介して切り替えるか、次のようにタイプして明示的にチャンネルを呼び出すことができます。

```
SAC>ch -si 1 (チャンネルの番号) または ch -sn Cmd0001 (チャンネルの名前)
```

## SACチャンネル – コマンドチャンネルを介したWindowsへのログイン

**注：**以下のオプションを表示できるようにするには、OSがインストールされロードされていなければなりません。そうでない場合は、別のオプションが表示されます。

```
SAC> ch -sn cmd0001
```

```
Name: Cmd0001
```

```
Description: Command Prompt
```

```
Type: VT-UTF8
```

```
Channel GUID: 27f30ac1-25d9-11d8-87db-505054503030
```

```
Application Type GUID: 63d02271-8aa4-11d5-bccf-00b0d014a2d0
```

```
Press <esc><tab> for next channel.
```

```
Press <esc><tab>0 to return to the SAC channel.
```

```
Use any other key to view this channel.
```

[ユーザ名]オプションが表示されたら、ADMINISTRATORとタイプします。

[ドメイン]オプションが表示されたら、**Enter**キーを押します。

[パスワード]オプションが表示されたら、OSのAdministratorのパスワードをタイプします。

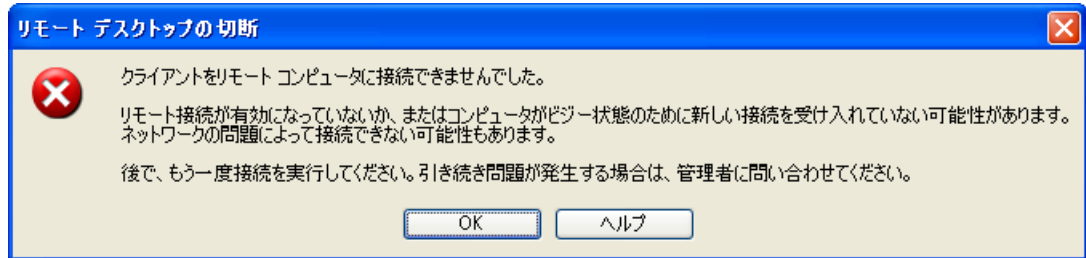
**注：**このパスワードは、高速セットアップ時に入力したパスワードです。

```
C:¥windows¥system32>
```

以上で、Windowsでのコマンドプロンプトの作業は終了です。

## リモートコントロールセッション：リモート デスクトップの起動

1. リモート デスクトップを起動します（通常、[アクセサリ]の[通信]にあります）。
2. 企業ネットワークに接続されているHP IntegrityサーバのLANのIPアドレスを入力します。
3. SAC>プロンプトでIPアドレスを検索するには、iとタイプします。IPアドレスが設定されていない場合、「SAC - HP Integrityシステム上のLAN用にIPアドレスを割り当てる」を参照して、IPアドレスを設定します。
4. [ユーザ名]ボックスにAdministratorと入力し、[パスワード]ボックスにパスワードを入力します。
5. 次のエラーが表示された場合は、以下のようになります。



「クライアントは、ターミナル サーバに接続できませんでした。処理が非常にビジー状態です。後で接続してください。」

この問題は、そのターミナル サービスが無効であると起きる場合があります。ターミナル サービスを有効にするには、コマンドチャンネルを開き、C:¥windows¥system32プロンプトで次のようにタイプします。

```
reg add "HKLM¥System¥CurrentControlSet¥Control¥Terminal Server" /v  
fDenyTSConnections /t REG_DWORD /d 0 /f
```

パラメータには、大文字と小文字を区別するものもあります。

## ハードウェア ステータスの確認

Windowsのデバイス マネージャ ツールを実行して、インストールされたデバイスに関する問題やリソースの競合を確認します。

1. [マイ コンピュータ]を右クリックして、[管理]をクリックします。
2. [コンピュータの管理]が起動します。
3. [システム ツール]の下の[デバイス マネージャ]をクリックします。
4. 横に黄色の感嘆符 (!) または疑問符 (?) が表示されているデバイスがないことを確認します。例外については、以下の注を参照してください。  
黄色の感嘆符 (!) は、デバイスにリソースの問題があることを示します。  
疑問符 (?) は、デバイスが認識されていないことを示します。
5. 感嘆符 (!) と疑問符 (?) のどちらも表示されていない場合は、ハードウェア ステータスの確認は完了しているので、手順10に移動できます。

いずれかのハードウェアについて上記の記号が示されている場合は、次の手順7に進んでください。

- 
6. いずれかの記号の付いた各デバイスをダブルクリックします。Device propertiesのダイアログ ボックスが表示されます。また、プリンタを使用できる場合は、メニューから**[表示]**、**[印刷]**オプションを使用して、レポートを作成してください。
  7. **[デバイスの状態]**フィールドには、感嘆符 (!) や疑問符 (?) が表示されている理由が説明してあります。

たとえば、このフィールドに「このデバイス用のドライバはインストールされていません。(Code 28)」と表示される場合があります。デバイスが正しく動作し、感嘆符 (!) や疑問符 (?) が表示されなくなるようにするには、このデバイス用の適切なドライバをインストールする必要があります。目的のデバイス ドライバが、CD-ROM/DVD-ROMに収録されている場合は、手順8の「CD-ROM/DVD-ROMからドライバをインストールします。」に進んでください。

適切なドライバが見つかり、[ハードウェア アップデート ウィザード]は、そのドライバを適切なディレクトリにコピーして、このデバイス用にインストールします。[ハードウェア アップデート ウィザード]が複数のバージョンを見つけた場合は、使用できるすべてのバージョンが表示されます。必ず、ディスク ドライブに収録されているバージョンを選択して、**[次へ]**をクリックしてください。

**注：** デバイスのドライバにデジタル署名がない場合は、HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/> (英語) で最新のドライバ パッケージを確認することをおすすめします。新しいバージョンを使用できる場合は、そのドライバをインストールしてください。

- a. [ハードウェア アップデート ウィザード]がドライバのインストールを終了すると、ウィザードがデバイス用のソフトウェアのインストールを完了したことを示すウィンドウが表示されます (デバイス名も表示されます)。
- b. **[完了]**をクリックします。
- c. [デバイスのプロパティ]ウィンドウを閉じます。
- d. **[デバイス マネージャ]**ウィンドウは更新され、対象のデバイス用の正しいドライバがインストールされたことが反映されます。

デバイスの横の感嘆符 (!) や疑問符 (?) は表示されなくなります。

- e. 手順10に移動します。
8. CD-ROM/DVD-ROMからドライバをインストールします。
    - a. 対象のデバイス用のドライバを収録しているCD-ROM/DVD-ROMを挿入します。

**注：** このシステム用のほとんどのドライバは、HP Smart Setup DVDに収録されています。HP Smart Setupメディアを使用して、再インストール用のメディアまたはプリインストールOSのドライバが最新バージョンであることを確認してください。

- b. サーバは、CD-ROM/DVD-ROMを認識して、内容を表示します。ウィンドウを閉じてください。
- c. デバイス マネージャで、感嘆符 (!) または疑問符 (?) が表示されているデバイスをダブルクリックします。
- d. **[ドライバ]**タブをクリックします。
- e. **[ドライバの更新]**をクリックします。
- f. [ハードウェア アップデート ウィザード]で**[一覧または特定の場所からインストールする (詳細)]**を選択します。
- g. **[次へ]**をクリックします。

- 
- h. [ハードウェア アップデート ウィザード]は、リムーバブル メディア上で該当するドライバを検索します。

適切なドライバが見つかり、[ハードウェア アップデート ウィザード]は、そのドライバを適切なディレクトリにコピーして、このデバイス用にインストールします。[ハードウェア アップデート ウィザード]が複数のバージョンを見つけた場合は、使用できるすべてのバージョンが表示されます。必ず、CD-ROM/DVD-ROMに収録されているバージョンを選択して、**[次へ]**をクリックしてください。

**注：**デバイスのドライバにデジタル署名がない場合は、HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）で最新のドライバ パッケージを確認することをおすすめします。新しいバージョンを使用できる場合は、そのドライバをインストールしてください。

- i. [ハードウェア アップデート ウィザード]がドライバのインストールを終了すると、ウィザードがデバイス用のソフトウェアのインストールを完了したことを示すウィンドウが表示されます（デバイス名も表示されます）。
- j. **[完了]**をクリックします。
- k. [デバイスのプロパティ]ウィンドウを閉じます。
- l. **[デバイス マネージャ]**ウィンドウは更新され、対象のデバイス用の正しいドライバがインストールされたことが反映されます。

デバイスの横の感嘆符 (!) や疑問符 (?) は表示されなくなります。

9. インストールされているドライバがデジタル署名されているかどうかを確認します。
  - a. デバイス マネージャで、確認するデバイス（例：HP Smart Array）をクリックします。
  - b. そのデバイスを右クリックします。
  - c. **[プロパティ]**を選択します。
  - d. **[ドライバ]**タブをクリックします。
  - e. [デジタル署名者]を見つけます。そのデバイスのドライバがデジタル署名されている場合は、次のように表示されます。MS Windows Server 2003 Datacenter Server Publisher またはMicrosoft Windows Hardware Compatibility Publisher.

**注：**デバイスのドライバにデジタル署名がない場合は、HPのWebサイト<http://www.hp.com/support/itaniumservers/>（英語）で最新のドライバ パッケージを確認することをおすすめします。新しいバージョンを使用できる場合は、そのドライバをインストールしてください。

10. **[イベント ビューア]**、**[システム]**の順にクリックします。
11. システムのイベント ビューアを調べて、ログにエラーが報告されていないことを確認します。
12. 右ウィンドウのすべての警告およびエラーをダブルクリックして、各警告またはエラーに関する情報を表示します。
13. 完了したら、イベント ビューアを終了します。

---

## ハードディスク ドライブの初期化

ディスク アドミニストレータを起動するには、以下の手順に従ってください。

1. **[マイ コンピュータ]**を右クリックしてから、必要に応じて、**[ストレージ]**の横のプラス記号 (+) をクリックして、このフォルダを展開します。
2. **[ディスクの管理]**をクリックします。
3. 署名のない新しいハードディスク ドライブがある場合は、**[Initialize and Convert Disk]**ウィザードが起動します。
4. ウィザードに表示される手順に従って、新しいハードディスク ドライブの署名を作成します。
5. ハードディスク ドライブをフォーマットし、パーティションを作成します。

**注：**ハードディスク ドライブには、**ダイナミック**と**ベーシック**（**GPT**または**MBR**）の2つのタイプの設定があります。画面のドライブ アイコンを右クリックして、適合するタイプを選択できます。ダイナミック ドライブは、複数の物理ハードディスク ドライブを含むことのできるボリュームの作成に使用されます。ベーシック（**GPT**または**MBR**）ドライブは、パーティション分割されるプライマリまたはローカル ドライブの作成に使用されます。

## 静的IPアドレスの設定

インストールの実行中、サーバはDHCPを使用するように設定されました。ネットワーク上にDHCPサーバがない場合、システムは任意のIPアドレスを自動設定して、機能を開始できるようにします。クライアントと通信できるようにするには、必ず、適切なIPアドレスを設定してください。サーバのIPアドレスを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. **[コントロール パネル]**から**[ネットワーク接続]**をクリックします。
2. **[ローカル エリア接続]**をダブルクリックします。システムに搭載されているネットワーク インタフェース カード (NIC) ごとに1つの**[ローカル エリア接続]**アイコンが表示されます。それぞれのアイコンを参照して、適切なNICを確認します。
3. **[ローカル エリア接続状態]**画面で**[全般]**タブをクリックし、プロパティをクリックします。
4. **[インターネット プロトコル (TCP/IP)]**を選択します。
5. **[プロパティ]**をクリックします。
6. **[次のIPアドレスを使う]**をクリックします。
7. 適切なIPアドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイを入力します（例：100.100.100.1）。

**注：**DNSサーバのIPアドレスを使用できる場合、適切なDNS IPアドレスを入力してください。

8. 入力したサブネット マスク値が有効であることを確認します。
9. **[OK]**をクリックして、続行します。
10. **[ローカル エリア接続状態]**ボックスで**[OK]**をクリックして、ネットワーク インタフェース カードにIPアドレスを割り当てます。
11. ネットワーク インタフェース カードがご使用のネットワークに物理的に接続されていることを確認します。

ネットワーク インタフェース カードが接続されていない場合は、リンクをテストできません。



- 
12. コマンドプロンプト ウィンドウを開いて、TCP/IP設定を確認します。次のコマンドを入力します。

```
ipconfig /all
```

サーバがネットワークに物理的に接続され、サブネット マスクを伴った有効なIPアドレスが割り当てられている場合は、コマンドプロンプト ウィンドウに、前の手順で入力した設定情報が表示されます。

13. コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力して、リンクをテストします。

```
ping computername
```

ここで、*computername*はサーバ名です。サーバは、4回応答します。サーバが応答しない場合は、リンクに問題があるため、次の手順に移る前に修正しなければなりません。

14. サーバに接続されているいずれかのクライアントにpingを送信して、リンクをテストします。たとえば、次のように入力します。

```
ping 100.100.100.2
```

クライアントは、4回応答します。

## リモート デスクトップ接続を介した静的IPアドレスの設定

リモート デスクトップ接続を介して、またはVGAコンソール上で静的IPアドレスを設定するには、以下の手順に従ってください。SACの"i"コマンドの使用と異なる変更は、再起動することによって維持されます。

1. [コントロールパネル]から[ネットワーク接続]をクリックします。
2. 該当するLANカードを選択します。複数のLANカードと区別するには注意が必要です。アクティブなLANケーブルに接続されていないカードには、**赤色の"x**"が表示されます。アクティブなLANケーブルに接続されているカードの場合は、LANカードをクリックすると、[接続状態を示す]ダイアログ ボックスが表示されます。ここには、カードの現在のIPアドレスを示す[サポート]タブがあります。
3. [接続状態を示す]ダイアログ ボックスにある[プロパティ]ボタンを選択します。これは[プロパティ]ダイアログ ボックスを表示します。
4. [インターネット プロトコル]を選択し、[プロパティ]ダイアログ ボックスにある[プロパティ]ボタンを押します。[TCP/IPプロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
5. [TCP/IPプロパティ]ダイアログ ボックスで[次のIPアドレスを使う]を選択し、IP設定を入力します。[詳細設定]ボタンを押し、追加設定をすることができます (WINSサーバ等)。
6. LANカードの[プロパティ]ダイアログ ボックスにある[閉じる]ボタンを押したら、ご使用のリモート デスクトップ接続が完了します。セッションを再接続するには、新しいIPアドレスを使用したリモート デスクトップ接続を開く必要があります。

---

## クライアントのネットワークへの接続

通常の手順に従って、クライアントをサーバに接続された適切なハブに接続します。

## ターミナル サーバ サービスの追加

**注：**リモート管理モードは、インストールされるすべてのMicrosoft Windows Server 2003で、デフォルトで有効になっています。ターミナル サービスをセットアップして、アプリケーション モードで実行するには、「ターミナル サーバ サービスの追加」の項の手順に従ってください。また、ターミナル サーバ サービスでは、2人のユーザが同じログイン名で同時にログインすることは許可されません。

1. **[コントロール パネル]**を開きます。
2. **[プログラムの追加と削除]**をダブルクリックします。
3. **[Windowsコンポーネントの追加と削除]**をクリックします。
4. **[ターミナル サーバ]**までスクロールし、**[ターミナル サーバ]**を選択します。
5. **[次へ]**をクリックします。
6. **[ターミナル サーバ セットアップ]**画面で、**[次へ]**をクリックします。
7. 次の画面で、デフォルトの**[完全なセキュリティ]**に設定されていることを確認し、**[次へ]**をクリックします。
8. プロンプトが表示されたら、Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Edition, CD-ROMを挿入します。
9. **[完了]**をクリックして、ウィザードを閉じます。
10. **[はい]**をクリックして、システムを再起動します (CD-ROMを取り出してください)。
11. システムが再起動したら、システムにログインします。
12. **[コントロール パネル]**を開きます。
13. **[管理ツール]**フォルダを開きます。**[ターミナル サーバ ライセンス]**、**[ターミナル サービス構成]**、および**[ターミナル サービス マネージャ]**アイコンが表示されるはずですが。

## リモート デスクトップ接続ユーティリティのセットアップ (IA32コンピュータ)

HP IntegrityサーバのC:\windows\system32\clients\tsclient\win32ディレクトリから、リモート デスクトップ接続ユーティリティを入手できます。ユーティリティを入手したら、以下の手順に従ってください。

1. TSClient\win32ディレクトリのすべてのファイルをディスクまたは他のメディアにコピーします。
2. クライアント システムで、ディレクトリを作成し、すべてのファイルをそのディレクトリに格納します。
3. セットアップ ファイルを選択し、そのファイルをクリックして、リモート デスクトップ接続ユーティリティをインストールします。
4. **[Remote Desktop connection - InstallShield]**ウィザード画面のインストール手順に従います。

**注：**このターミナル サービス クライアント ソフトウェア コンポーネントを使用して、Microsoft Windows NT Server 4.0, Terminal Server EditionおよびMicrosoft Windows 2000 OSのサービスに接続し、使用することにより、プログラムを表示または使用できます。

---

## リモート デスクトップ接続ユーティリティのセットアップ (IA64コンピュータ)

**注：**リモート管理モードは、インストールされるすべてのMicrosoft Windows Server 2003で、デフォルトで有効になっています。ターミナル サービスをセットアップして、アプリケーション モードで実行するには、「ターミナル サーバ サービスの追加」の項の手順に従ってください。また、ターミナル サーバ サービスでは、2人のユーザが同じログイン名で同時にログインすることは許可されません。

1. [スタート]メニューから、[プログラム]、[アクセサリ]、[通信]、[リモート デスクトップ接続]の順にクリックします。
2. [コンピュータ]ドロップダウン ボックスをクリックします。
3. [<参照...>]を選択します。
4. [コンピュータの参照]ダイアログ ボックスで該当するコンピュータ名を選択します。
5. [OK]をクリックします。
6. [接続]をクリックします。
7. 有効なユーザ名とパスワードを使用してログインします。
8. 選択したコンピュータのリモート デスクトップ ウィンドウが表示されるはずですが。

**注：**リモート接続ウィンドウを最小化して、画面上部に表示することもできます。最大化ボタンをクリックしてください。

---

## Windowsの設定についてのトラブルシューティングに関するヒント

この項では、既知の問題、解決策、および回避策について説明します。

### ヒント1. OSのローダをNVRAMにインポートする

**注：**Windowsがインストールされている場合、WindowsのそのバージョンがEFI Boot Managerから起動するように、データがNVRAMに保存されます。NVRAMをクリアした場合やNVRAMが壊れた場合、このデータをインポートしてNVRAMに戻して、EFI Boot Managerがこのブート オプションを提供するようにする必要があります。ブート データをインポートしてNVRAMに戻すには、以下の手順に従ってください。

1. イメージ ドライブをシステムに挿入します。
2. システムを起動して、EFIシェルにアクセスします。
3. イメージ ディレクトリにアクセスします（例：Shell > fs0:）。
4. 次のコマンドを入力します。

```
DIR
```

5. 次のコマンドを入力します。

```
CD MSUTIL
```

6. 次のコマンドを入力します。

```
NVRBOOT
```

```
NVRBOOT: OS Boot Options Maintenance Tool [Version 5.2.3683]
```

```
1. EFI Shell [Built-in]
```

```
* = Windows OS boot option
```

```
(D)isplay (M)odify (C)opy E(x)port (I)mport (E)rase (P)ush (H)elp (Q)uit
```

```
Select>
```

7. **[I]**を選択して、イメージ ドライブのOSローダをサーバのNVRAMにインポートします。

```
Select>I
```

8. ブート ファイルのパスをタイプします。

```
インポートファイルのパスを入力します。¥EFI¥microsoft¥winnt50¥boot0000.
```

```
Locate your boot file path before entering NVRBOOT
```

9. 完了したら、EFI Boot Managerにブート オプション（NVRBOOT）が表示されます。

```
NVRBOOT: OS Boot Options Maintenance Tool [Version 5.2.3683]
```

```
1. EFI Shell [Built-in]
```

---

\* 2. Windows Server 2003, Datacenter

\* = Windows OS boot option

(D)isplay (M)odify (C)opy E(x)port (I)mport (E)rase (P)ush (H)elp (Q)uit

Select>

(Q)uitを入力しnvrbootを終了します。

## ヒント2. Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionをセーフ モードで起動する方法

このヒントでは、Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionを、HP Integrityサーバ上でSAFEブートするように設定する方法を説明します。ここでは、この目的を実現する方法を2つ紹介します。1つは、手動でNVRBOOT.EFIを使用し、エントリを作成するという方法です。もう1つは、WINPE環境でバッチファイルsafeboot.cmdを使用してエントリを作成し、NVRBOOT.EFIでそのエントリを編集するという半自動の方法です。

**NOVESAオプション：**Windowsでは、従来のVGAドライバは高度なVESAモードを無効にする必要があります。/NOVESAブート オプションを使用してインストールする間に問題が発生します。これは、ブロードされたWindowsのインストールの一部として自動的に発生します。

このフラグを削除しないと、Windowsが停止する場合があります。修正する場合は、必ず、ロード オプションに/NOVESAオプションを含めてください。

2つのEFI Boot Managerエントリを追加して、サーバがセーフ モードで起動できるようにする必要があります。以下では、この目的を実現する3つの方法について説明します。

1. NVRBOOT.EFI (Microsoftツール) を実行することにより、EFI環境を使用する。
2. EFINVR.EXE (Microsoftツール) を呼び出すバッチ ファイルを実行することにより、WINPE環境を使用する。
3. OSを起動します。Windowsの起動時に**F8**ファンクション キーを押します。

**注：**ハードウェア メーカーが提供するHP再インストール用メディアは、これらのsafe-bootエントリを作成しません。デフォルト設定は、Microsoft Windows Server 2003のそのままの状態です。

### 方法1：NVRBOOT.EFIを実行することにより、EFI環境を使用する

1. EFI画面を起動して、NOSがインストールされているEFIプロンプトを表示します。
2. MSUtilディレクトリに移動します。
3. nvrboot.efiユーティリティを実行します (nvrboot.efiファイルは隠しファイルで、EFIパーティションにあります)。

NVRBOOT: OS Boot Options Maintenance Tool [Version 5.2.3683]

\* 1. Windows Server 2003, Enterprise

2. DVD CD

3. EFI Shell [Built-in]

\* = Windows OS boot option

---

(D)isplay (M)odify (C)opy E(x)port (I)mport (E)rase (P)ush (H)elp (Q)uit

Select>

4. 既存のWindows Server 2003エントリをコピーするため、[C]を押します。

Select> c

Enter OS boot option to copy: 1

5. どのエントリをコピーするかエントリ ナンバの入力を求められるので、既存のOSエントリ ナンバを入力します。
6. エントリ一覧の下にコピーされたエントリが表示されます。Optionを変更するため[M]を押します。
7. どのエントリをモディファイするかエントリ ナンバの入力を求められるので、新しくできたOSのエントリ ナンバを入力します。
8. エントリの名称を変えるためには、新しくコピーされたブート オプションの[LoadIdentifier]を変更します。1を押して、**Windows Server 2003 Safe-Boot Minimal**などの分かりやすい名前に変更します。
9. 新しいエントリのロード オプションを変更する必要があるので、6.~7.を繰り返し、2を押して、`/safeboot:minimal /sos /bootlog /redirect /novesa`と入力します。
10. 正確に変更したエントリの内容を確認するためには、[D]を押してエントリ ナンバを入力します。
11. [Q]を押しnvrbootを終了します。

## 方法2 : EFINVR.EXEを呼び出すバッチ ファイルを実行することにより、WINPE環境を使用する

EFI Boot Managerエントリを作成するためにEFINRV.EXEから使用できる唯一のツールでは、エントリ記述や[LoadIdentifier]を渡すことができません。

1. WinPE Re-installメディア (バージョン1.6J以上) を起動します。
2. コマンドプロンプトを開きます。
3. `safeboot.cmd`を入力します。これにより、上記の2つのEFI Boot Managerエントリが作成されます。これら2つのエントリは、EFI Boot Managerリストの一番下に表示されます。ただし、両方のエントリのエントリ記述は変更する必要があります。
4. WinPEを終了して、EFI環境を起動します。
5. nrvbootを実行して、2つのエントリの[LoadIdentifier]を変更します。1つは、Microsoft Windows Server 2003 Safe-Boot Minimalに、もう1つは、Microsoft Windows Server 2003 Safe-Boot Networkに変更することをおすすめします。

---

次の画面サンプルでは、エントリが作成された後、**Boot Manager**が表示する内容を順番に示します。

```
EFI Boot Manager ver 1.10 [14.56] Firmware ver 80.10 [4216]
Please select a boot option
  Microsoft Windows Server 2003
  DVD CD
  EFI Shell [Buil-in]
  Microsoft Windows Server 2003 Safe Mode Minimal
  Microsoft Windows Server 2003 Safe Mode Network
  Boot option maintenance menu
  Security/Password Menu
```

次の画面サンプルでは、**nvrboot.efi**の表示オプションを示します。

```
NVRBOOT: OS Boot Options Maintenance Tool [Version 5.1.3550]
* 1. Microsoft Windows Server 2003
  2. DVD CD
  3. EFI Shell [Built in]
* 4. Microsoft Windows Server 2003 Safe Mode Minimal
* 5. Microsoft Windows Server 2003 Safe Mode Network

* = Windows OS boot option

(D)isplay (M)odify (C)opy E(x)port (I)mport (E)rase (P)ush (H)elp (Q)uit

Select> d
Enter boot option to display: 4
1. LoadIdentifier = Microsoft Windows Server 2003 Safe Mode Minimal
```

---

```
2. OsLoadOptions = /safeboot:minimal /sos /bootlog /redirect /novesa
3. EfiOsLoaderFilePath = 006F0073-0066-0074-5C00-570049004E00 :: ¥EFI¥Microsoft¥
WINNT50¥ia64ldr.efi
4. OsLoaderFilePath = 8EB50004-ABB1-47EF-5DB8-BF7695FC883A :: ¥WINDOWS
```

```
Press enter to continue
```

```
(D)isplay (M)odify (C)opy E(x)port (I)mport (E)rase (P)ush (H)elp (Q)uit
```

```
Select> d
```

```
Enter boot option to display: 5
```

```
1. LoadIdentifier = Microsoft Windows Server 2003 Safe Mode Network
2. OsLoadOptions = /safeboot:network /sos /bootlog /redirect /novesa
3. EfiOsLoaderFilePath = 006F0073-0066-0074-5C00-570049004E00 :: ¥EFI¥Microsoft¥
WINNT50¥ia64ldr.efi
```

### ヒント3. 空白パスワードとローカル ユーザ アカウント

Microsoft Windows Server 2003, Datacenter Editionには、空白パスワードのユーザを攻撃から守るための新しいデフォルト セキュリティ機能が用意されています。そのアカウントをパスワードで保護していないユーザは、物理コンピュータ コンソール（コンピュータに物理的に接続されたモニタ、キーボード、およびマウス）上の初期画面（Winlogon）でのみ、そのアカウントにログオンすることができます。この制限は、ネットワーク ログオンだけでなく、すべてのタイプのログオンに適用されます。

たとえば、空白パスワードのアカウントで、RunAsを使用してプロセスを実行することはできません。この制限は、ローカル ユーザ アカウントにのみ適用され、ドメイン ユーザ アカウントには適用されません。また、ゲスト アカウントにも影響を及ぼしません。このオプションは、ドメイン アカウントには適用されないため、ドメイン コントローラはこのオプションを無視します。この機能は、ローカル セキュリティ ポリシーまたはドメイン ポリシーを介して設定できます。



---

## ヒント4. Windows Diskpartツールの使用

オンライン ヘルプにアクセスして、OSからOPKツールを実行することができます。

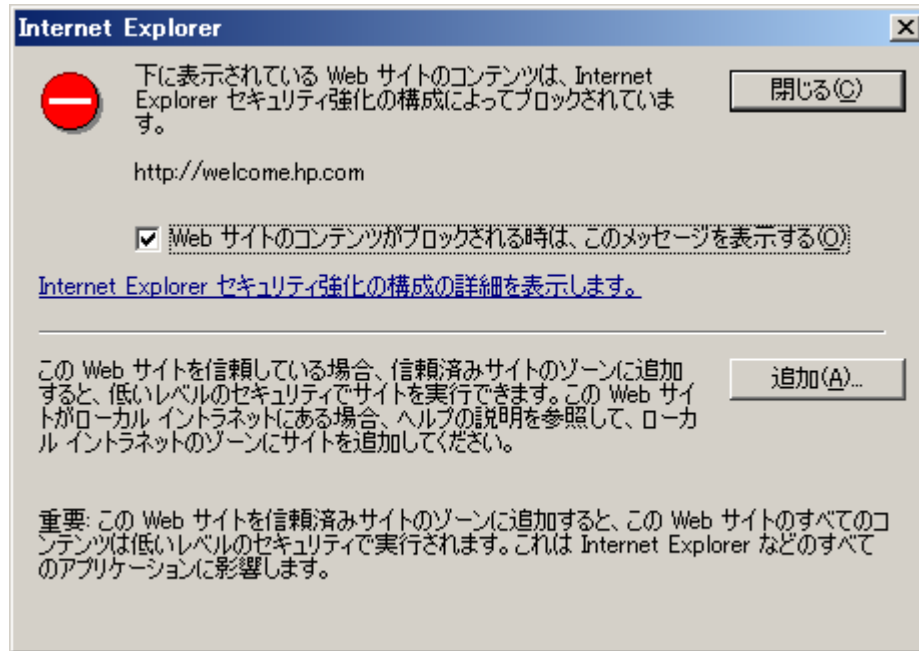
1. 再インストール用メディアから起動します。
2. **[Advance]**をクリックして、コマンドプロンプトを開きます。
3. **diskpart.exe**を実行します。
4. diskpartメニューでhelpとタイプします。  
DISKPART>help
5. 画面の指示に従います。

## ヒント5. Microsoft Windows Server 2003に付属のMicrosoft Internet Explorer 6.0を使用すると、HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティ (ACU) がセキュリティ警告メッセージを正しく表示する。

Microsoft Windows Server 2003には、Microsoft Internet Explorer 6.0のわずかに修正されたバージョンが付属しています。このバージョンは、対象とするサーバ サイトをセキュリティ保護されたゾーンに分類するという点で、他のバージョンとは異なります。IE 6.0の以前のリリースでは、ローカル イン트라ネット上のサーバは、デフォルトで[イントラネット]ゾーンに所属し、このゾーンでは、デフォルト セキュリティ設定の制限レベルが緩やかでした。Internet Explorer 6.0のこの新しいバージョンでは、すべてのサーバが、デフォルトで最高レベルのセキュリティ設定を備えた「インターネット ゾーン」に所属します。サイトが「インターネット ゾーン」に分類されている状態で、HPアレイ コンフィギュレーション ユーティリティを使用すると、セキュリティ警告メッセージが表示されます。

**注：** ACUを使用するために、スタート メニューの[Program Files X86]の下にある[Internet Explorer 32ビット]を使用しなければなりません。

ローカル アプリケーション モード（このモードは、Webサーバを使用しません。また、ACU 6.40以上のデフォルト実行モードです）でアレイ コンフィギュレーション ユーティリティを実行すると、Internet Explorerで次のようなセキュリティ警告メッセージが表示されます。



リモート サービス モード（このモードは、Webサーバを使用し、リモートのシステムからシステム マネジメント ホームページを使用してACUにアクセスできるようにします）でアレイ コンフィギュレーション ユーティリティを実行する場合、[今後、このダイアログを表示しない]ボックスをチェックするか、または対象となるサーバをブラウザの[イントラネット]ゾーンに手動で追加するまでは、多数のセキュリティ警告メッセージが表示されます。

URLでサーバ名の代わりにIPアドレスを使用すると、Internet Explorerは、次のセキュリティ警告を表示します。

このサイトと取り交わす情報は、他の人から読み取られたり変更されたりすることはありません。しかしこのサイトのセキュリティ証明書には問題があります。

セキュリティ証明書の名前が無効であるか、またはサイト名と一致しません。

この問題は、Internet Explorer 6.0の付属するMicrosoft Windows Server 2003の任意のバージョンにインストールされたACU 6.40に影響を及ぼします。解決策は、次のとおりです。

アレイ コンフィギュレーション ユーティリティを、ローカル アプリケーション モード（このモードは、Webサーバを使用しません。また、ACUのデフォルト実行モードです）で実行する場合、ローカル ACUを[信頼済みサイト]ゾーンに追加する必要があります。

1. セキュリティ警告上で[追加]をクリックして、画面を表示します。この画面で、サイトを[信頼済みサイト]ゾーンに追加できます。

- 
2. **[追加]**をクリックして、**http://**を[信頼済みサイト]ゾーンに追加します。注：これにより、**http://\*.0.0.0.0**が信頼済みサイトのリストに追加され、ACUは、Webサーバを使用することなく、Internet Explorer内で正しく動作できます。
  3. **[閉じる]**をクリックします。

アレイ コンフィギュレーション ユーティリティを、リモート サービス モード（このモードは、Webサーバを使用し、リモートのシステムからシステム マネジメント ホーム ページを使用してACUにアクセスできるようにします）で実行する場合、表示されるセキュリティ警告上の[今後、このダイアログを表示しない]ボックスをチェックし、以下の手順に従って、追加したいターゲット サーバを[イントラネット]ゾーンに追加します。

1. Internet Explorer 6.0のプルダウン メニューで**[ツール]**をクリックします。
2. **[インターネット オプション]**、**[セキュリティ]**タブの順に選択します。
3. **[イントラネット]**アイコンをクリックして、**[サイト]**、**[詳細設定]**の順にクリックします。
4. ターゲット サーバを[イントラネット]ゾーンに手動で入力します。次のフォーマットを使用してください。

```
http://<サーバ名 (IPアドレス) >:2301  
または  
https://<サーバ名 (IPアドレス) >:2381
```

URLでIPアドレスを使用してアレイ コンフィギュレーション ユーティリティにアクセスする場合は、セキュリティ警告で**[Yes]**をクリックして、次に進みます。

**注：**アレイ コンフィギュレーション ユーティリティを実行するには、Internet ExplorerでJavaScriptを有効にする必要があります。JavaScriptは、Internet Explorerの[信頼済みサイト]ゾーンおよび[イントラネット]ゾーンのデフォルトセキュリティ レベルで有効になっています。

## ヒント6. ビデオ モードを有効にして、EFI環境で表示/出力を行う方法

### EFI Boot Manager version 1.10 [14.61]

1. 次のメニューから、**[Boot option maintenance menu]**を選択します。

```
Windows Server 2003, Datacenter  
EFI Shell [Built-in]  
Boot option maintenance menu
```

---

## EFI Boot Maintenance Manager ver 1.10 [14.61]

1. メインメニューから、操作を選択します。

```
Boot from a File
Add a Boot Option
Delete Boot Option(s)
Change Boot Order
Manage BootNext setting
Set Auto Boot TimeOut
Select Active Console Output Devices
Select Active Console Input Devices
Select Active Standard Error Devices
Cold Reset
Exit
```

2. [Select Active Console Output Devices]を強調表示して、**Enter**キーを押します。

## EFI Boot Maintenance Manager ver 1.10 [14.61]

1. コンソール出力デバイスを選択します。

```
Acpi (PNP501,0) uart (9600 N81) /VenMsg (PcAnsi)
Acpi (PNP501,0) uart (9600 N81) /VenMsg (Vt100)
Acpi (PNP501,0) uart (9600 N81) /VenMsg (Vt100+)
Acpi (PNP501,0) uart (9600 N81) /VenMsg (VtUtf8)
Acpi (HWP0002,700) /pci (1|1) /uart (9600 N81) /VenMsg (PcAnsi)
Acpi (HWP0002,700) /pci (1|1) /uart (9600 N81) /VenMsg (Vt100)
Acpi (HWP0002,700) /pci (1|1) /uart (9600 N81) /VenMsg (Vt100+)
Acpi (HWP0002,700) /pci (1|1) /uart (9600 N81) /VenMsg (VtUtf8)
*Acpi (HWP0002,700) /pci (2|0)
Save Settings to NVRAM
Exit
```

**Acpi(HWP0002,700)/pci(2|0)**にチェックがついているか確認します。ついていなければ上記項目にカーソルを移動し、スペースキーを押し選択します。

2. 設定をNVRAMに保存して、終了します。

---

## ヒント7. OSメモリ ダンプを保存するための大規模構成システムの設定方法

Windowsでは、ページファイルの管理が可能です。プリロード時に、カスタム ページファイル サイズが選択され、パーティションで設定されるメモリの容量に基づいて設定されています。これ以降に、性能を向上させるために、ページファイル サイズが変更されたり、追加のページファイルが設定されたりすることがあります。複数のページファイルがある場合、Windowsは、システム ディスク上にないページファイルを利用しようとします。ページファイルの使用率は、タスク マネージャやシステム モニタで監視できます。

また、Windowsは、障害発生時にメモリ ダンプを保存するように設定できます。カーネル メモリ ダンプおよび完全メモリ ダンプは、ともに、システム ページファイルを一時的なストレージデバイスとして使用します。このため、ページファイルには、十分な容量が必要です。2GBまでのRAMで設定されているシステムでは、システム ディスク上のページファイルは、完全なメモリ ダンプを保存する場合は物理RAMの容量に12MBを加えた容量に設定する必要があり、カーネル ダンプを保存する場合はその約半分に設定する必要があります。Windows 2003では、システムに2GB以上のRAMが搭載されている場合は、完全なメモリ ダンプ オプションを選択することはできません。システム ドライブのページファイルのサイズを総物理メモリ容量の20%または20GBのうち、少ないほうのサイズまで増やすことをおすすめします。どのような場合でも、メモリ ダンプを保存するには、システム ディスク上のページファイルの初期サイズを最大サイズと一致させてください。

障害が発生し、システムが再起動した後、メモリ マネージャは、システムのページファイルから管理者が指定した位置に、メモリ ダンプをコピーします。この位置は、ローカル接続のディスク上でなければなりません。このディスクについては、メモリ ダンプを保存する十分な空き容量があるかどうかを監視する必要があります。以降にメモリ ダンプが行われると、以前のデータは上書きされます。

ページファイル サイズを増やすには、以下の手順に従ってください。

1. **[マイ コンピュータ]**を右クリックして、**[プロパティ]**を選択します。
2. **[詳細設定]**タブ、**[パフォーマンス]**フレームの**[設定]**の順に選択します。
3. **[詳細設定]**タブ、**[仮想メモリ]**フレームの**[変更]**の順に選択します。
4. **[ドライブ]**の下で、ページファイルを配置するボリュームを選択します。
5. **[選択したドライブのページング ファイル サイズ]**の下で、**[カスタム サイズ]**を選択して、サイズを20GBに設定します。  
**[システム管理サイズ]**を選択すると、Windowsがページ ファイルを推奨サイズに設定します。このサイズが大きすぎる場合は、**[カスタム サイズ]**を選択して、物理メモリの20%にサイズを設定します。たとえば、システムの物理メモリが512GBの場合、サイズを102500MBに設定します。
6. システム ディスク上のページ ファイルの場合は、必ず、初期サイズを最大サイズと同じ値に設定してください。
7. **[システムのプロパティ]**ダイアログ ボックスが表示されるまで、**[OK]**を何回かクリックします。次に、**[起動と回復]**フレームの**[設定]**をクリックします。
8. ここには、通常、デバッグ情報の書き込み用の4つのオプション (**[ (なし) ]**、**[最小メモリ ダンプ]**、**[カーネル メモリ ダンプ]**、および**[完全メモリ ダンプ]**) があります。

システム ディスク上に20%の推奨サイズを満たす十分な空きディスク容量がない場合、可能な限り大きなサイズを選択して、カーネル メモリ ダンプ設定を維持します。最小メモリ ダンプは、通常、システム障害の根本原因を特定できるような十分な情報を含みません。ただし、一連の障害がすべて同じ根本原因によるものかどうかを確認するのに役立つことがあります。また、電子メールで簡単に通知できるという利点もあります。

---

## 応答しないシステムでダンプを作成する

この処置を実行するには、慎重な作業が求められます。慎重に作業を進めないと、システムに障害が発生して、ソフトリセットが必要になります。システムが応答しない場合、以下のいずれかの方法を使用して、カーネルメモリダンプを作成できます。

1. SACの`crashdump`コマンドを使用します。SACプロンプトで、**crashdump**とタイプします。SACの画面が更新され、致命的なシステムエラー「0x000000E2 - Manually Initiated Crash」が表示され、物理メモリのダンプを作成中であることが示されます。特定の状況で、別のバグコード「0x0000000A - IRQL\_NOT\_LESS\_OR\_EQUAL」が表示されることがあります。これは既知の問題であり、この場合でも有効なクラッシュダンプが作成されています。
2. MPを使用して、`cm`を入力しコマンドメニューを起動します。ダンプを開始するには、**tc**コマンドを使用します。SACの表示が更新され、致命的なシステムエラー「0x000000E2 - Manually Initiated Crash」が反映され、物理メモリのダンプを作成中であることが示されます。

## システム リストア メディアとページ ファイル

システムパーティションは、32GB以上のディスクドライブ上で構築する必要があります。再インストール用メディアを使用する場合、管理者およびCEは、システムボリュームを構成する際に32GBまたは最大ドライブサイズのオプションを使用する必要があります。ページファイルサイズを後になって手動で設定しない限り、16GBオプションを使用すると、システム障害の際にカーネルメモリダンプを作成できなくなります。さらに、16GBオプションを使用する場合にページファイルサイズを手動設定すると、ページファイルサイズは最小推奨サイズの20GBより少なくなります。

## ヒント8. SACプロンプトから再設定するための再起動 (shutdown-r) またはシャットダウン (shutdown -s) 方法

**注：**再設定のためのシャットダウンや再起動は、任意のParCLI操作を実行する前に行う必要があります。シャットダウンや再起動は、以下の方法で行うことをおすすめします。そうしないと、予測しないシャットダウンエラーダイアログメッセージが表示されることがあります。

再起動のために、`shutdown -r`を実行するには、以下の手順に従ってください。

1. 削除したパーティションのSAC>プロンプトに移動します。
  - a. SAC>プロンプトから、コマンドチャンネルを作成します。

```
SAC>cmd

The Command Prompt session was successfully launched.
SAC>

EVENT: A new channel has been created. Use "ch -?" for channel help.
Channel: Cmd0001
SAC>
```
  - b. **Esc**キー、**TAB**キーの順に押して、チャンネルCMD0001に切り替えます。

---

Name: Cmd0001  
Description: Command Prompt  
Type: VT-UTF8  
Channel GUID: 39ffb321-b8b1-11d7-8335-505054503030  
Application Type GUID: 63d02271-8aa4-11d5-bccf-00b0d014a2d0  
Press <esc><tab> for next channel.  
Press <esc><tab>0 to return to the SAC channel.  
Use any other key to view this channel.

- c. 任意のキーを押して、チャンネルを開き、管理者のユーザ名とパスワードを入力します。ログイン用のクレデンシャルを入力してください。

Username: Administrator

Domain:

Password: \*\*\*\*\*

- d. ここで、shutdown -rをタイプして、正常なシャットダウンを実行し、再起動します。

Microsoft Windows [Version 5.2.3790]

(C) Copyright 1985-2003 Microsoft Corp.

C:¥windows¥system32>shutdown /r /t 0

**シャットダウンのためにshutdown -sを実行するには、以下の手順に従ってください。**

1. 削除したパーティションのSAC>プロンプトに移動します。

- a. SAC>プロンプトから、コマンドチャンネルを作成します。

SAC>cmd

The Command Prompt session was successfully launched.

SAC>

EVENT: A new channel has been created. Use "ch -?" for channel help.

Channel: Cmd0001

SAC>

- b. **Esc**キー、**TAB**キーの順に押して、チャンネルCMD0001に切り替えます。

Name: Cmd0001

Description: Command Prompt

Type: VT-UTF8

Channel GUID: 39ffb321-b8b1-11d7-8335-505054503030

Application Type GUID: 63d02271-8aa4-11d5-bccf-00b0d014a2d0

Press <esc><tab> for next channel.

Press <esc><tab>0 to return to the SAC channel.

Use any other key to view this channel.

- c. 任意のキーを押して、チャンネルを開き、管理者のユーザ名とパスワードを入力します。ログイン用のクレデンシャルを入力してください。

---

Username: Administrator

Domain:

Password: \*\*\*\*\*

- d. ここで、shutdown -sをタイプして、正常なシャットダウンを実行します。

Microsoft Windows [Version 5.2.3790]

(C) Copyright 1985-2003 Microsoft Corp.

C:\windows\system32>shutdown /s /t 0

## ヒント9. Adobe Acrobat Reader 6.0がWindows Server 2003をサポートしない

**問題：** Adobe社のWebサイトからAdobe Acrobat Reader 6.0をダウンロードしようとしても、使用できるプラットフォームのリストにWindows Server 2003 OSがありません。

**回避策：** Adobe社のテキスト表示のみのダウンロード ページからAdobe Acrobat Readerをダウンロードしてください。これにより、Acrobat ReaderをWindowsの通常の方法でインストールできます。HP Integrityサーバでは、バージョン5.5以下を使用することをおすすめします。

## ヒント10. HP Integrity SuperdomeおよびHP Integrity rx8620/rx7620でPCIホットプラグが失敗する

**問題：** 追加や削除が頻繁に失敗する

**回避策：**

1. デバイス マネージャを起動し、システム デバイスを展開します。[HPCSR OpRegion Driver]を右クリックしてから、[プロパティ]をクリックします。次に、[ドライバ]タブをクリックします。ドライバは、バージョンが1.1.0.0で日付が2003/6/5でなければなりません。ドライバのバージョンが異なる場合は、ドライバを更新する必要があります。
2. デスクトップの[OnlineReference]ページを開きます。
3. [OEM Drivers]をクリックします。
4. [Description]欄で、[Click on HP (Hotplug) Region Driver]をクリックします。これで、devconドライバの更新が開始されます。
5. [Yes]を選択して、ドライバをインストールします。



---

## オンライン情報およびソフトウェアの提供元

HP Integrityサーバのサイト : <http://www.hp.com/support/itaniumservers/> (英語)  
<http://www.hp.com/jp/itanium>

HPのインターネットWebサイト : <http://www.hp.com/> (英語)  
<http://www.hp.com/jp>

Microsoft社のWWWアクセス : <http://www.microsoft.com/> (英語)  
<http://www.microsoft.com/japan>

## アラートおよび通知の登録

アラートおよび通知のサインアップと登録をおすすめします。これにより、HPのドライバおよびサポートのアラートが、ご使用の製品および周波数ニーズに合わせてカスタマイズされた最新情報を提供します。HPのWebサイトを参照してください。

<http://www.hp.com/go/subscriberschoice/> (英語)

## マイクロソフト プロダクト セキュリティ 警告サービスの登録

Microsoft社のWebサイトでMicrosoft security bulletin notification serviceにサインアップすることをおすすめします。

<http://www.microsoft.com/technet/default.msp>または  
<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/bulletin/notify.asp>

## Windows Updateの登録

システムのセキュリティを維持するためにMicrosoft社のWindows Update機能を利用することをおすすめします。Microsoft社のWebサイトを参照してください。

<http://windowsupdate.microsoft.com/>